

活動報告書

第15回 阪神つながり交流祭 2024

～阪神地域を盛り上げる大学生を知ろう～



阪神つながり交流祭学生実行委員会2024

【 も く じ 】

1. 阪神つながり交流祭の実施内容 p 2-9

交流祭当日に実施した内容をまとめた（当日パンフレット再掲）。

2. 交流祭当日のアンケート結果のまとめ p 10-12

交流祭当日に参加者に募ったアンケートをグラフにし、その結果から出た反省点などを報告する。

3. 2024 年度の活動の進め方 p 13

来年度の実行委員会の方に参考にしていただくために、我々がどのようなスケジュールで当日まで迎えたのかをまとめた。

4. 個人振り返りレポート p 14-32

今回の活動全体を通して、個々がどのような活躍をし、どのような学びを得たのかレポートにまとめた。また、活動期間内でメンバーそれぞれがどのくらい満足のいく活動ができていたのかが一目でわかるように、時期別でメンバー全員の個人評価をまとめた。

5. チーム別振り返りレポート p 33-35

交流祭に向けて準備する中で、随時チームを作って役割分担しておりました。その一部のチームの活動についてレポートでまとめた。

1. 阪神つながり交流祭の実施内容

開催概要

プログラム名	第 15 回阪神つながり交流祭 2024 「阪神地域を盛り上げる大学生を知ろう！」
日 時	2024 年 12 月 8 日(日) 14:00~17:00
場 所	武庫川女子大学 文学 2 号館
目 的	阪神地域の大学・短期大学の大学生で構成されるつながり交流祭学生実行委員会が企画・運営の主体となり、地域団体や事業者、商店街等と連携して実施する地域活性化活動の促進をめざしています。
主な内容	14:00~ オープニングコンサート（演奏：武庫川女子大学 浜甲カンタービレ） 14:15~ 開会 あいさつ 14:25~ 活動発表（PR タイム）（40 分） 15:15~ ブースセッション（90 分） 16:45~ 振り返り・閉会 あいさつ 17:00 終了
参加者	158人 （内訳）参加団体（学生・教員・大学事務局）：109 人 一般参加者・連携団体：30 人 つながり交流祭学生実行委員・兵庫県・こみサポ：19 人
主 催 共 催 企画・運営	つながり交流祭学生実行委員会 兵庫県阪神南県民センター NPO 法人コミュニティ事業支援ネット

つながり交流祭学生実行委員会

今回の「第 15 回阪神つながり交流祭 2024」では、各団体の魅力をお伝えしながら、つながりを意識できるような企画を考えて参りました。ブースセッションでは、団体同士と来場者の方々が交流・意見交換できる場所になっておりますので、最後までお楽しみください。

つながり交流祭学生実行委員会とは

「阪神つながり交流祭」を企画運営するため、阪神地域の複数の大学の学生から構成される組織で、NPO 法人コミュニティ事業支援ネットが実施する「阪神まち大学※」の中に設置されています。

※阪神まち大学…社会課題・地域課題に対して、自ら答えを導き出す力を身に付けた「社会で活躍する人材」を育成することを目的とした大学生向けプロジェクトです。

実行委員会メンバー

関西学院大学 人間福祉学部	4 年	川口 美空	関西学院大学 経済学部	4 年	チェ チョンヒョン
関西学院大学 法学部	4 年	町田 真之介	関西学院大学 総合政策学部	3 年	中村 莉果
関西学院大学 総合政策学部	3 年	山口 弥海	関西学院大学 総合政策学部	2 年	山口 乃亜
関西学院大学 法学部	1 年	生亀 沙樹	甲南大学 マネジメント創造学部	1 年	山田 諒

プログラム

14:00	オープニングコンサート (10 分) 演奏：浜甲カンタービレ 開会あいさつ(10 分) 兵庫県阪神南県民センター長 小林 拓哉 武庫川女子大学社会連携推進センター事務部長 谷村 勇一 つながり交流祭学生実行委員会 山口 乃亜	L2-11 教室(1 階)
14:25	活動発表・PR タイム(各団体発表 3 分) ブースセッションへの導入として、各団体が活動概要を発表します。	L2-11 教室(1 階)
15:15	ブースセッション (90 分) 発表団体がそれぞれブースを作り、活動発表を行います。 訪れる方と相互に交流し、つながりのきっかけとします。	L2-31～ L2-35 教室(3 階)
16:45	振り返り・閉会あいさつ 兵庫県阪神南県民センター副センター長 奥野所 正樹 つながり交流祭学生実行委員会 山口 乃亜	L2-31 教室(3 階)

～活動発表 (PR タイム) & ブースセッション参加団体～

※参加団体の詳細は 4 ページ以降に記載

1. 園田学園女子大学 教職サークル ゆかなか
外国にルーツのある子どもとその保護者の支援活動
2. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 大江篤研究室
塚口ゆめ未来プロジェクト ～コスメの売り場づくり&キッチンカーの販売活動～
3. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 足立邦子研究室
尼崎プロジェクト
4. 関西学院大学 栗田研究室
尼崎を甘～く
5. 関西学院大学 ソーシャルメディア研究会
子どもでも大人でもない”真ん中世代”が繋ぐ 「ネットとわたし」プロジェクト
6. 大手前大学 海老ゼミナール
西宮(阪神間)の地域観光資源の調査とタブロイド紙制作
7. 武庫川女子大学 生活環境学部 井上重信ゼミナール
cosmecco LUNA
8. 武庫川女子大学 浜甲カンタービレ
団地・大学交流プロジェクト 浜甲カンタービレ
9. 甲南大学 Beans Talk
スポーツ・社会的実践を通じた子どもの支援活動

参加団体情報（詳細）／活動発表・PR タイム 報告順

1. 園田学園女子大学 教職サークル ゆかなか

プロジェクト名	外国にルーツのある子どもとその保護者の支援活動
担当教員	人間教育学部 児童教育学科 准教授 山崎雅史
連携団体	尼崎市総合政策局協働部ダイバーシティ推進課
発表概要	まずは、日本語教室に参加し、日本語の教え方を学びました。そして、そこで学んだ日本語の教え方を活かす実践の場として、尼崎市主催の夏休み宿題教室に参加し、ベトナム人の子どもの宿題をサポートしました。サポートしながら、指差し会話ツールとして、どのようなものにするよいか、どのような言葉が通じずに困っているのかを体験しながら考えました。現在、指差し会話ツール（下敷きとクリアファイル）の作成中です。

2. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 大江篤研究室

プロジェクト名	塚口ゆめ未来プロジェクト ～コスメの売り場づくり&キッチンカーの販売活動～
担当教員	経営学部 ビジネス学科 学長・教授 大江篤
連携団体	塚口商店街振興組合、尼崎市都市整備局土木部道路課、はんつかサラダ実行委員会
発表概要	学生たちが主体的に活動することにより阪急塚口駅前を活性化します。駅前 SOCOLA 内のダイエーとコラボしてコスメ売り場づくりの展開と大学キッチンカーを駅前で販売活動することで、阪急塚口駅前を元気にします。これらの事業を実施することで、変貌する阪急塚口駅から JR 塚口駅周辺の地域の方々といふれあうことでまちの活性化に多彩に取り組むことを目的としています。

3. 園田学園女子大学 経営学部ビジネス学科 足立邦子研究室

プロジェクト名	尼崎プロジェクト
担当教員	経営学部 ビジネス学科 准教授 足立邦子
連携団体	阪神電気鉄道株式会社、尼崎造園事業協同組合、都ホテル尼崎他
発表概要	【住みたいまち尼崎】 尼崎市内の公園を取材し、その記事（写真を含む）を書きました。また、複合型遊具をテーマにコラム記事を作成しました。それらを阪神電鉄様が運営される WEB サイト「阪神沿線活性化 WEB_エンカチ」及び SNS（LINE）から発信していただきました。 【訪れたいまち尼崎とその周辺地域】 尼崎市内のホテル内における若者向けレストラン・メニューや推活サポート・プランを提案し、効果的な PR 法について提案しました。

4. 関西学院大学 栗田研究室

プロジェクト名	尼崎を甘〜く
担当教員	経済学部 教授 栗田匡相
連携団体	一般社団法人 あまがさき観光局、阪神電気鉄道株式会社沿線価値創造推進室、株式会社ホンダカーズ尼崎
発表概要	私たちの活動は尼崎市が昔から抱えるあまり良くないイメージを甘く帰るために尼崎を甘〜くというプロジェクトを行っています。具体的には年に 2 回尼崎市の魅力を発信する雑誌を作成したり、あまがさき観光局と協力して、#尼崎食堂という名前で Instagram や WEB に投稿したり、また SDGs×地方創生をテーマとして、AMA WORLD FES というイベントを主催として開催しました。また今年は関西国際空港にて訪日外国人調査を行い、調査結果から尼崎市へ政策の提言を行う予定です。

5. 関西学院大学 ソーシャルメディア研究会

プロジェクト名	子どもでも大人でもない”真ん中世代”が繋ぐ 「ネットとわたし」プロジェクト
担当教員	人間福祉学部 教員 岡本周佳
連携団体	西宮市立深津中学校、西宮市東山台小学校、宝塚市中山台小学校、関西学院中学部・高等部
発表概要	昨今、増え続けている小学生によるインターネットトラブルを未然に防ぐために始めた SNS 講演会についてです。私たち大学生は、ネットを先に使い始めた先輩として、今の小学生にはインターネット上で同じ失敗をしてほしくないという思いがあります。そこで、周辺の小学校を訪問し、自身の失敗談や経験をもとに講演を行う活動を始めました。その講演内容は、子どもと年齢に近い大学生ならではのアプローチとなっています。

6. 大手前大学 海老ゼミナール

プロジェクト名	西宮（阪神間）の地域観光資源の調査とタブロイド紙制作
担当教員	現代社会学部 観光・地域マネジメント専攻 准教授 海老良平
連携団体	西宮市産業文化局産業部商工課（都市ブランド発信担当）、一般社団法人にしのみや観光協会
発表概要	本活動は阪神間の観光情報を掲載するタブロイド紙を制作することを目的としており、連携先となるのは西宮市商工課（都市ブランド発信担当）様、にしのみや観光協会様です。掲載内容は、西宮市などが推進している「にしのみやコーヒーの扉プロジェクト」の参加店舗へのインタビュー、西宮・芦屋市内のミュージアムや周辺施設取材した情報等です。なお、タブロイド紙は西宮市役所や市内の観光案内所他、各所で設置して頂く予定です。

7. 武庫川女子大学 生活環境学部 井上重信ゼミナール

プロジェクト名	cosmecco LUNA
担当教員	社会情報学部 社会情報学科 准教授 井上重信
連携団体	甲子園警察署、日本反射材普及協会、株式会社丸仁・Light Force、就労継続支援 B 型事業所ライラック、就労継続支援 B 型事業所すみれ、就労継続支援 B 型事業所輝き工房、就労継続支援 B 型事業所ワークキューブ、ヤドリギ商店、芦屋カフェ、株式会社木栄、Oak Village、株式会社神戸マツダ
発表概要	リフレクターの普及に向けて活動をしています。リフレクターの認知向上と普及拡大により夜間の交通事故の削減を目指しています。普及のために端材を使ったワークショップを行い、売上は日本赤十字社に寄付をしました。リフレクターの普及にむけたフィールドワークとして障がい者施設や産婦人科、警察署等での調査を実施しています。さらにリフレクターに対するアイデア検討、商品開発などを行っています。

8. 武庫川女子大学 浜甲カンタービレ

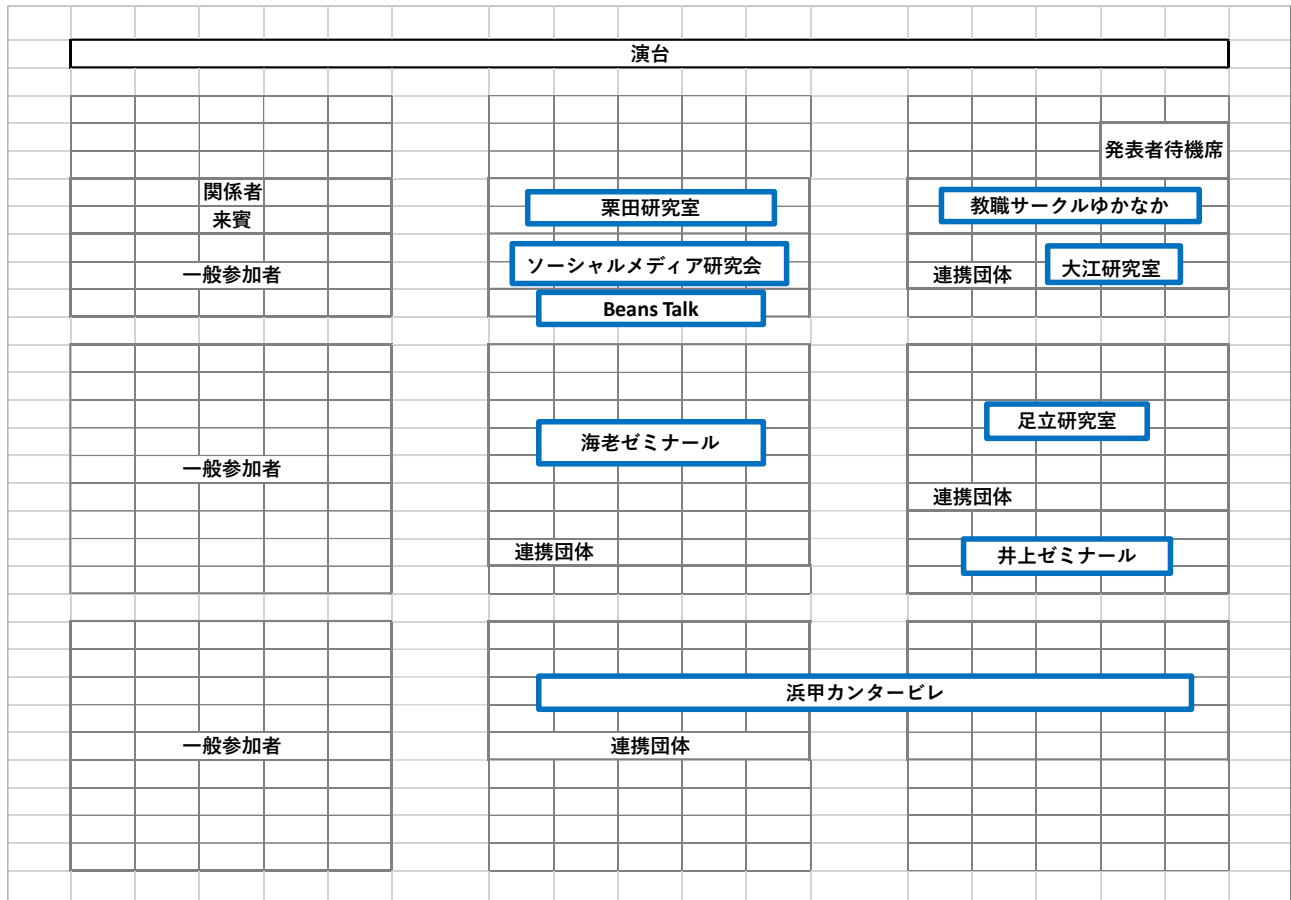
プロジェクト名	団地・大学交流プロジェクト 浜甲カンタービレ
担当教員	音楽学部 応用音楽学科 准教授 多田秀子（代表）／講師 坂口裕子
連携団体	UR 兵庫エリア経営部 企画課（阪神班）、浜甲子園団地自治会、一般社団法人まちのね浜甲子園
発表概要	『浜甲カンタービレ』は、2012 年に設立された武庫川女子大学音楽学部の演奏学科と応用音楽学科の両学科が一体となり学年を超えた学生ボランティア団体です。演奏者と来場者が共に楽しめる「参加型音楽会」（月 1 回程度）、浜甲カンタービレが主催し結成した「なぎさハーモニー合唱団」の活動（月 2 回程度）を通して、子どもから高齢者まで幅広い年代層の浜甲子園団地住民のコミュニティ活性化を目指して活動を続けています。

9. 甲南大学 Beans Talk

プロジェクト名	スポーツ・社会的実践を通じた子どもの支援活動
担当教員	甲南大学 マネジメント創造学部 非常勤講師 小林あきこ
発表概要	私たちは子どもたちがさまざまな体験を一つの場所で得られる場を提供し、経験格差をなくすことを目指しています。主に提供しようとしている内容はスポーツ分野と社会実践分野に分かれていますが、子どもたちにとって重要な体験であれば、分野にとらわれず幅広く行っていく方針です。現在は主に小学生を対象に行っています。その理由は中学生、高校生と比べて時間があるということや、一人時間の確保が難しい保護者の力になるためです。

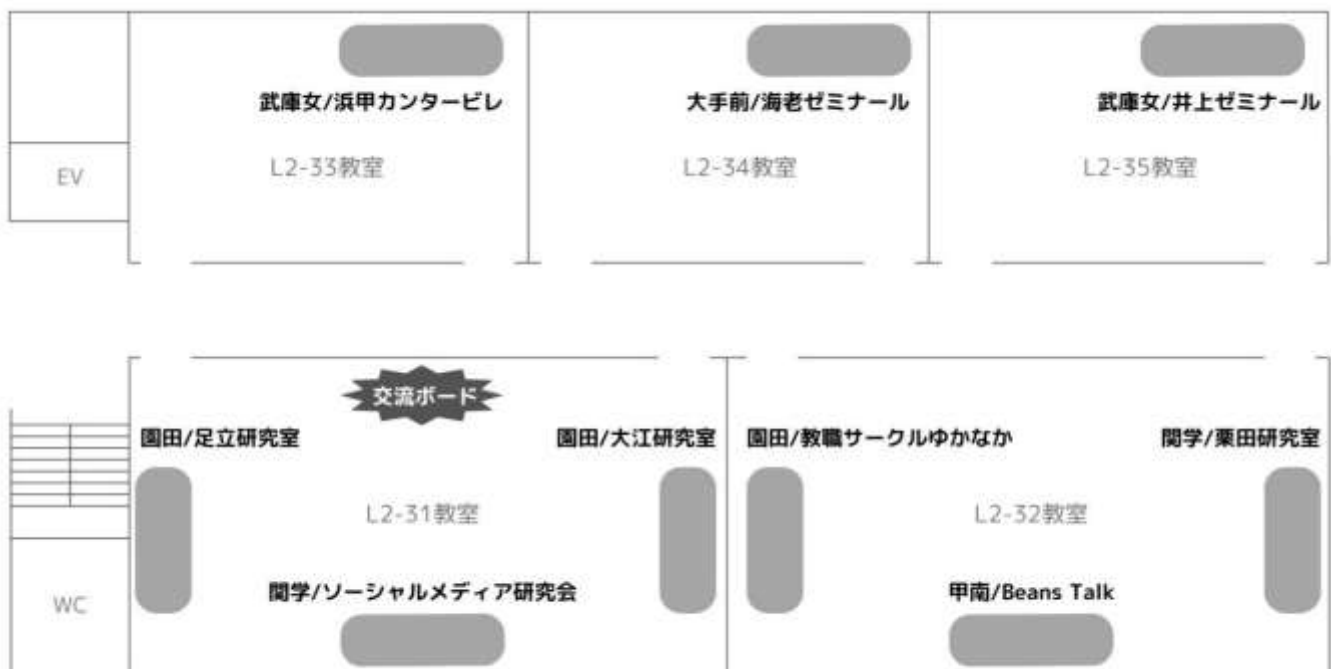
会場レイアウト図

■開会式、活動発表（PR タイム） 座席表 文学2号館 L2-11



■ブースセッション・振り返り・閉会式 レイアウト図

文学2号館3階 L2-31~L2-35
※振り返り・閉会式 L2-31 で実施



特別企画 【未来を描こう】阪神つながり交流ボード！

メインテーマ「私たちが思い描く阪神地域の未来」

みんなが思い描く「阪神地域の未来」をシェアするボードです。

阪神つながり交流祭の目的は、地域活性化の促進を目指し、阪神地域の大学と地域のつながりを深めることです。

地域活性化活動に取り組む学生との交流を通して、皆様の思い描く阪神地域の未来には、どんなことが必要だと思われましたか？

『あったら良いなと思う取り組み』、
『やってみたい活動』、
『理想の阪神地域の姿』を付箋に書いて、
L2-31 教室の交流ボード（ホワイトボード）に貼ってください♪

政策、イベント、ボランティアなど、なんでも構いません。

みんなの想いをつなげて、理想の阪神地域の未来をつくりましょう！



つながり交流祭学生実行委員会からのメッセージ

本日はご来場くださり、誠にありがとうございます。

本日のイベントはいかがでしたでしょうか？

このイベントが少しでも阪神地域への関心を持っていただくきっかけになり、
新しい人との出会いの場を提供できたのであれば、この上ない喜びです。

今年度は、より多くの人と交流し、その交流が深いものになって欲しいと感じたため、
ブースセッションに力を入れました。

私たちは、この「つながり交流祭」の企画を通して、参加団体（大学のゼミ）、
県やNPO 法人の方々と関わり、地域について考えるきっかけを得ることができました。

このようなイベントを企画できたことを、大変光栄に思います。

この「つながり交流祭」は、参加者の皆様、発表団体の皆様、武庫川女子大学様、
阪神南県民センター様、NPO 法人コミュニティ事業支援ネット様のご協力によって、
開催することができました。

地域社会もたくさんの方々の支えによって成り立っていると思います。

どうかこのイベントにとどまらず、これからも阪神地域の絆を深め、

共に助け合いながら明るい未来を築いていきましょう。

今日できた新しいつながりが、このイベントにとどまらず、

これからも地域をつくる仲間として続いていくことを願っています。

阪神まち大学 つながり交流祭 学生実行委員会一同

あなただけの阪神つながり交流祭 BOOK を作ろう！

in ブースセッション

ディスカッションやブースセッションと聞くと、
少し真面目な堅苦しいイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか？
私たち実行委員会は
地域活性化に興味のない人でも参加しやすい、ワクワクするような交流祭にしたいと思い、
この企画を考えました。

学生団体の活動内容を、視覚的にわかりやすいポップなポスターに仕上げました。
各ブースを回ることによって、スタンプラリー感覚でこのポスターを集めていただけます。
ご自身で集めたポスターを、パンフレットにどんどん加えてみてください！

これで「阪神つながり交流祭 BOOK」の完成です ✨

人それぞれブースを回る順番は異なるので、
あなただけの阪神つながり交流祭 BOOK を作ることができます。

ぜひ、積極的にブースセッションを回っていただき、

あなただけの阪神つながり交流祭 BOOK のつくり方！

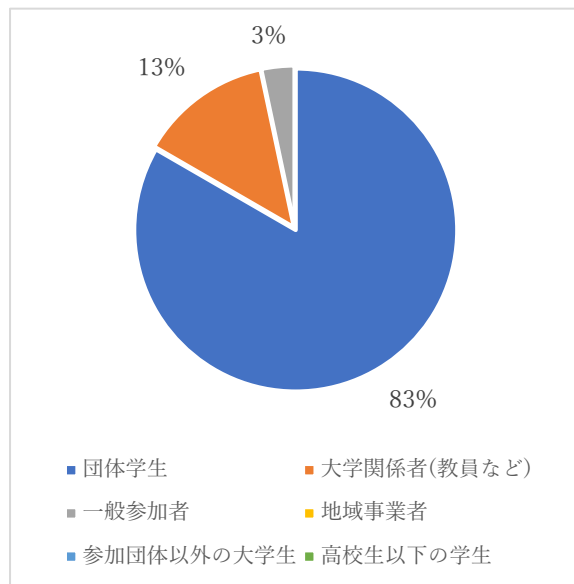


2. 交流祭当日のアンケート結果のまとめ

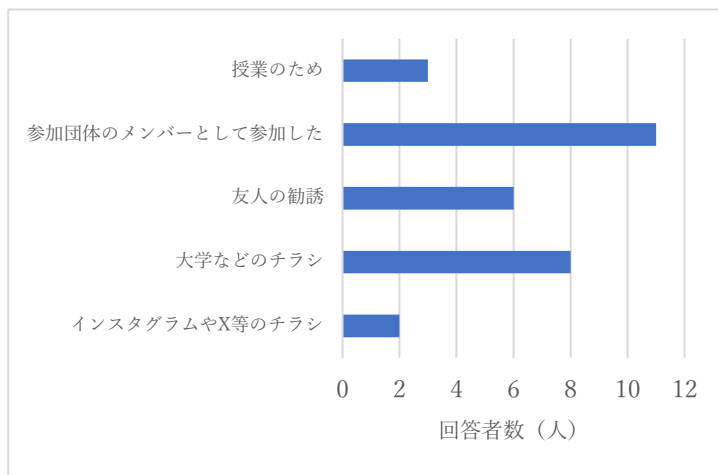
28 件の回答が集まった。

以下がアンケートの結果と内容である。

○参加者属性

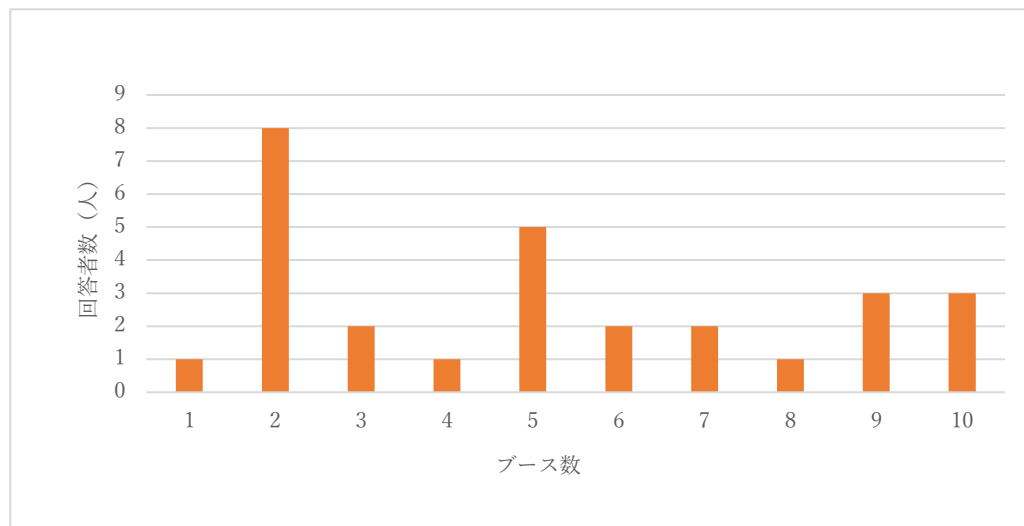


○参加のきっかけ



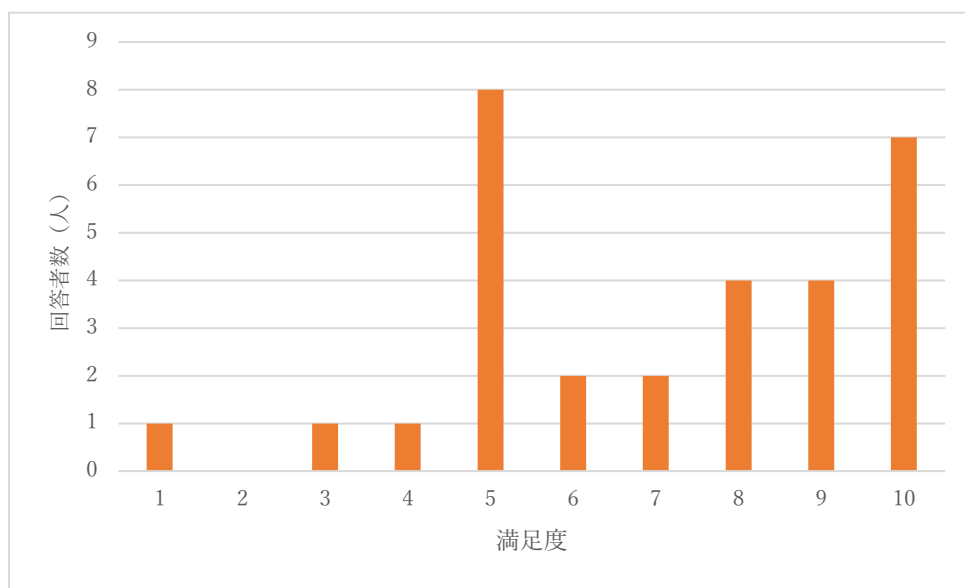
- ・最も多いのが『参加団体のメンバーとして参加した』
- 次に多いのが『大学などのチラシ』

○ブースセッションで交流できた団体数



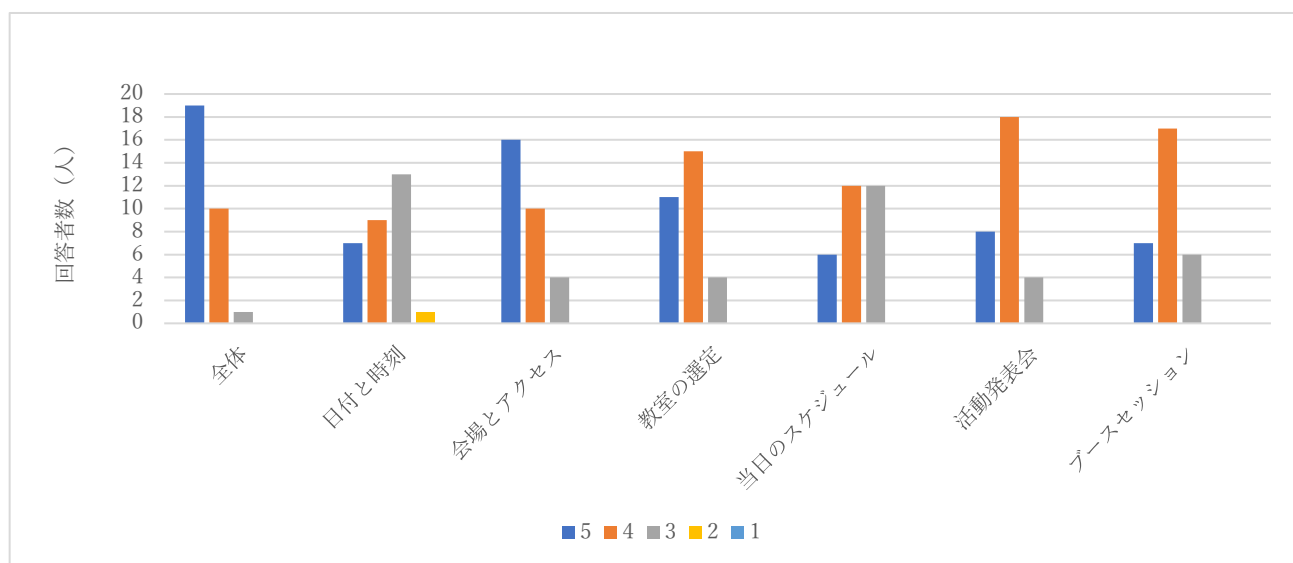
- ・1～3 団体：11 名, 4～6 団体：8 名, 7～10 団体：9 名

○次回の阪神つながり交流祭への参加希望度



<10 段階（1：可能性は全くない ～ 10：極めて可能性がある）>

○阪神つながり交流祭の満足度



<5 段階評価（5：満足 ～ 1：不満）>

- ・全体（総合的な満足度） 5：19名, 4：10名
- ・日時と時刻 5：7名, 4：9名, 3：13名, 2：1名
- ・会場とアクセス 5：16名, 4：10名, 3：4名
- ・教室の選定 5：11名, 4：15名, 3：4名
- ・当日のスケジュール 5：6名, 4：12名, 3：12名
- ・活動発表 5：8名, 4：18名, 3：4名
- ・ブースセッション 5：7名, 4：17名, 3：6名

○イベントに対して改善点やご要望（記述）

- ・地域の方々の参加を増やす方策をご検討ください。いくつかマッチングのきっかけがありましたが、多くの方に来ていただきたいと思います。
- ・各ブースに付箋でコメントしたいです。
- ・ブースセッション時間をもう少し短縮し、終了時間を少し早めてほしい。
- ・片付けが昨年よりもとてもスムーズで本当にありがたかったです。机椅子移動の際に、原形が分からなかったため、もう少し指示をいただけるとさらにスムーズに片付けることができると思いました。
- ・今回のプレゼンを見ていて、とても上手いところもあればまいちなところも正直あったので、プレゼン優秀賞にはこちらをプレゼント的なものがあればみんなも良いプレゼンになるのかなと思いました。
- ・ブースセッションの時間が少し長かった。
- ・返却物のリストの紙などがあればよかった。

○アンケート結果を踏まえて

良かったこと

- ・片付けが昨年よりもとてもスムーズになっていたとの声があった。
- ・前年と比較し、イベントに関する不満を改善することができた。

改善すること

- ・『返却物のリストの紙などがあればよかった』や『片付けの際に、教室の原形が分からなかった』などの意見があったため、実行委員内だけでなく、参加団体に必要な情報を洗い出し、共有しておく必要がある。
- ・『各ブースに付箋でコメントしたい』との意見もあったため、当初の案にあったように、各ブースに交流ボードを設置したり、交流ボードのテーマをもっと自由度の高いものにしても良いかもしれない。
- ・ブースセッションの時間が長いとの意見が複数あった。当日は、間延びしている状況を見て時間を短縮して閉会の時間を早めたものの、さらに短い時間に設定するか、追加団体数を増やすなどの策も考えられる。
- ・昨年と同様、回答者数が少なかった。閉会時に呼びかけもおこなっていたが、その場で回答する時間を作るなど、やや強制的な手段をとることの必要性も感じられる。
- ・地域の方々（一般参加者）の参加を増やす方策を考える。
- ・活動発表では、団体全体の発表内容の質向上につなげるため、良い発表をした団体に優秀賞などを与えるなどの工夫を検討してみる。

3. 2024 年度の活動の進め方

8月～12月までの活動の進め方(2024年度版)



11月中旬から交流祭当日まで全く余裕がなかったため、このスケジュールよりもっと早く準備すべきだったと思います。

全体的にもっと早め早めで決められたらベストだと思います。

4. 個人振り返りレポート

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 4年
氏 名	川口 美空

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	●メンバー、コミサポの方々、県職員の方々と顔合わせした。自己紹介、役割決め、MTGの曜日決めをした。メンバーはみんな優しそうで、これから一緒に取り組んでいくことが楽しみのになった。想像以上に、自分たちの自主性が求められることを知り、少し不安になった。役職決めはスムーズに決まり、良かった。	5点 ・初対面のメンバーの個性や人となりがなんとなく把握できる会だったから。 ・役職決めの際に積極的に話すことで、スムーズに進行することができたから。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG(アイデア確認)、(9月)	●過去のイベント内容を振り返り、どのような企画を作りたいかを出し合った。「アートをテーマに」と決めたが、「アート」といっても、本格的なアートも含むのか/つながり交流祭本来の趣旨からそれてしまうのではないかという課題があり、話し合いを重ねた。その結果、地域活性化、団体の魅力を伝えるための手段としてアートを盛り込むことに決まった。担当の参加団体のアート案を考える作業があったが、案が湧いてこず、提案に苦労した。公共交通機関が行っているイベントをオマージュした案などを出したメンバーには感動した。 ●下見保存組として、教室の写真を撮影したり、ホワイトボードの個数を数えたりしたが、もっと細かくメモしておくべきだった。ホワイトボードの具体的なサイズが分からず、本番ぎりぎりになって奥西さんを通して大学側に質問する結果になってしまった。	3点 ・アートの案があまり出てこず、積極的に話すことができず、「うんうん」と乗ることが多かった。 ・会場下見では、情報収集不足も多く、後々他方に迷惑をかけることになってしまった。ホワイトボードのサイズ(何cmか)や、折り曲げ式/スタンダード式のそれぞれの個数などを記録しておくべきだった。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認)(9月,10月)	●団体のインタビューを Zoom で行った。軽く自己紹介をし、交流祭の趣旨の説明や教室の雰囲気を伝え、どういった内容を交流祭で行いたいかのヒアリングをした。2団体のインタビューに参加した。説明用パワポに沿って説明したことで、全団体に統一の認識を与えられたと思う。 ●10月上旬から、回答書・開催概要・準備物に関する資料を【資料作成チーム】で作成開始した。昨年の資料を改良して作ったため、去年の資料には感謝しかない。文字で説明することの難しさを感じた。上手な言い回しや表現が思いつかず、苦戦した。イーゼルのイメージ図や、ポスターの完成予想図を挿入することで、分かりやすい文書になった。足立先生から資料に関してお褒めの言葉を頂けたらしく、非常に嬉しかった。	4点 ・資料作りに関して、率先して取り組めた。文書づくりの学びも多く、今後の社会人生活にも役立つだろう。 ・団体のインタビューで、団体に向けて説明することが、自身のアウトプットにも繋がった。

最後の定例・合同 MTG/リハーサル(11月)	●11月上旬に回答書・開催概要・準備物に関する資料を団体にメールした。回答書の期限を2週間後としていたのは、早すぎたかもしれない。しかし、企画案を詰めるのが難しかった&確定事項しか書けない&大人からのチェックも十分にしてもらいたいということから、致し方ないと思う。 ●回答書を踏まえたうえで、団体との2回目のZoomを行うことになり、その連絡をする必要があったが、メールを送るのがメンバー間で決めていた日より遅くなってしまった。せっかく決めていたことも、そのせいで後ろ倒しになり、迷惑をかけてしまった。 ●団体との2回目のZoomでは、9団体を担当した。説明用パワポを作っていたのでスムーズに進行できた。答えられない質問があっても、奥西さんに確認し、すぐにメールで対応できたことが良かったと思う。 ●司会担当になり、司会用スライドとシナリオを作った。山田くんが作ってくれたものを改良したため、非常に助かった。前日までスライドとシナリオを作っており、もっと早く着手すべきだったと反省した。ギリギリにも関わらず、奥西さんが添削をしてくださり、ありがたかった。	4点 ・スライド作りとシナリオ作りと、個人的な内容であるが卒論に迫られていた。もう少し誰かに頼って仕事を分担したら良かった。そうすることで全体的なクオリティも上がり、締切ギリギリに作業することもなかったかもしれない。忙しくて誰かに分配することを考える暇もない！という感じだったが、これは良くない考え方だと今は思う。背負いこみすぎず、頼れる仲間たちの力を借りることも大切だと学んだ。
阪神つながり交流祭 当日(12月)	●個人名と団体名は嘸まないという自分の目標を達成できて安心した。なるべく明るい声で進行するように心がけた。東さんに司会の極意を教えてもらったことも、無事司会を終えられたことの理由の1つだ。 ●ブースセッションでは、自身も周り、団体さんと関わる事ができた。興味深いブースばかりだった。	5点 ・すべてにおいてうまくいったと思う。当日まで不安しかなかったが、当日は楽しみながら運営できた。

1-②

役割	活動内容と感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
資料作成	【団体に送る 回答書・開催概要・準備物に関する資料の作成】 ・チーム内で分担/ダブルチェックを徹底したことでミスを防げた。 ・分かりやすい文書を作成できた。「自身が参加団体だったら」と、運営側の頭をいったん真っ白にして考えることを意識した。	4点 ・ダブルチェックを行ったため、団体にメール送信をした後に訂正するというトラブルもなかったことが良かった。 ・すべての資料完成を、もう少し早くすべきだったのでは。スケジュールが把握できなかったこともあり、致し方ないが・・・
回答書を踏まえた団体さんとの MTG	【回答書をもとに、参加団体と Zoom。交流祭の趣旨の再確認や、質問対応】 ・説明用パワポを作成することで、全団体に統一した情報を伝えられた。	5点 ・質問にもすぐに対応することを心がけた。分からないことは奥西さんに確認し、素早く対応できた。

2.「阪神まち大学」で学んだこと

- ・自身の性格にあった役割を遂行できたように思う。画期的な案や、特別輝いた案を提案してチームを引っ張るというよりは、チームを俯瞰して穏やかな雰囲気を作るポジションになれたのではないかな。チームで何かするということが、ここ数年なかったので不安もあったが、自身のチームでの役割を確認する良い機会になった。
- ・県、こみサポの方々とは、もう少し密に連絡を取れば良かった。聞きたいことがあっても、「何度も line を送ったら負担ではないか」と考えて、質問をまとめて送ることを意識していたが、その結果、判断が遅くなることもあった。奥西さんも、何度も「いつでも line してね」と仰ってくださっていたのだから、もっと気軽に(?)連絡を取るべきだった。どう行動

すれば、チームに最適なのかを考えることが大切だと感じた。

- ・チーム間で認識を合わせることの難しさを痛感した。週一の MTG や、議事録があっても、それぞれがイメージしているものが異なりすぎて驚いた。そのため、認識を合わせるために、「これは〇〇ということですね？」などと頻繁に自身の認識を示していくことも重要だと思った。企画案に関しては、図を用いて説明することや、箇条書きで説明すること、その案のメリットデメリットを示すことも、認識を合わせるために必要だ。
- ・メンバーのチームワークが良く、最高のメンバーだったと感じる。みんなそれぞれ個性があり、学部生活だけでは触れることのない価値観にも巡り合えたと思う。上級生下級生関係なく、意見を出せる場であったことも、チームワークの良さと交流祭の成功に繋がったのではないかな。みんなが一つの意見に賛成するばかりではなく、懸念点や疑問も言える環境になっていたことも、非常に良かった。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

- ・大学1、2年生の頃は、チーム内でのポジションに悩んでいた。「何か特別輝いた意見を言わないといけない！チームを引っ張る人にならないと！でもそんなもの浮かばない・・・。」とばかり思っていたが、就活で自己分析をするなかで、自身の特性に合った姿で一生懸命取り組めば良いのだと気が楽になり、今回もそのポジションを意識して活動できたように思う。今後の社会人生活でも、この適性を活かして何事にも一生懸命に取り組みたい。
- ・忙しい期間もあったが、非常に有意義な時間だった。同じ目標に向かって取り組む仲間に背中を押され、支えられたことは、かけがえのないものだ。「忙しい」「難しい」「初めてのことばかりで大変」とマイナスなことばかりを考えるのではなく、「忙しい！けど楽しい！やりがいあるな～」と自然に思っていた。これからもこの気持ちを忘れず、大変なこともポジティブに捉えて、楽しみながら社会人生活を送りたいと感じた。

4. 来年の実行委員会に向けて

- ・学年なんて数字でしかない！気にせず、いっぱい話しましょう！私は4年生ですが、1年生の2人がめちゃくちゃ喋りかけてくれて、嬉しかったし癒されました。企画のことではなく、普通にマクドとか食堂でおしゃべりしてました。そうするうちに、お互いのことも知れるし、企画のことで議論する時も、良い案がでるのではないのでしょうか！
- ・下見は入念に・・・。とにかくいっぱい写真と動画を撮る／黒板や机のサイズを計測する。メジャー持っていきましょう！

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 経済学部 4年
氏 名	チェ チョンヒョン

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	都合による対面参加ができず、リーダー選定や流れなどの議論に積極的に参加できなかったことは残念でしたが、4年生ではなく1、2、3年生がリーダーを務め、引っ張っていくのが成長につながることを主張し、反映させたのは意義があったと思います。	3点 対面参加ができなかったため。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9月)	アイデア出しの際には、アートという案に対して、現実的な視点をチームに与えようとしたのですが、言い方であったり、意見の表明という面で少しわがままであったり、非協力的な印象を与えたのではないかと今になっては思います。しかし、イベントの実現可能性をより明らかにするという点では4年生ならではの役割を果たせたのではないかと思います。	4点 多様な意見の中で、限られた時間で達成できるイベントへの誘導ができたと考えているため。

補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9月,10月)	合同 MTG に関してはりょうくんに感謝をいうべきかなと思います。当時、新しいアルバイトや内定先のイベントが諸々あり、あまり合同 MTG に参加できなかったのは残念に考えてます。	2 点 団体さんとの MTG にあまり参加できなかったのですが、県の方との MTG は割と参加できた方であると考えているため。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11月)	ここからはノアとりょうくんの覚醒があって、メンバーを引っ張ることができたと思いますが、その根底にはみうみさんの SNS 活動であったり、資料チームの苦労があったと考えています。私自身、少し非協力的な面も見せていたため、少し残念でした。私の発言権が少しあるようだったので、意見を控えめにしたということもあります。私自身、このイベントは高学年が引っ張っていくより、低学年をメインに新たな経験を積み上げることを目標としていて、私が現実的でみんなに文句を言わせないような意見を出すことももちろん可能でしたが、それならなんの成長も、楽しみもメンバーになかったと思いますので、個人的に大変満足しながら参加していた時期でした。ミクさんとマッシーさんには申し訳ないですけどね、、、。	3 点 しかしともあれ参加が不真面目だったという面も確かにあるため、次からはもっと何を考えているのか表明していきたいと思います。
阪神つながり交流祭 当日 (12月)	とりあえず女子大生が多かったのも、男性が受付にいた方が受けがよいと思っていました（嘘です） とりあえず、慌てることなく、自分ができることをしっかりとやっていこうという面が多かったです。縁の下の方の力持ちまでは目指してなかったのですが、それにいくまでもなく、他の皆さんがうまく回してくれて助かりました。	5 点 みんなで楽しくできました。

1-②

役割	活動内容と感想	5 段階評価と評価理由 (Ex. 5 点。なぜなら～)
大学連絡チーム	10 月から参加しました。主にりょうくんのサポートを務め、メールの添削や送信などを担当いたしました。	2 点 りょうくんに任せちゃった感が割と強いためです。

2. 「阪神まち大学」で学んだこと

上記している通り、今回の活動では低学年の企画力を向上させることを最初の目的としていました。今になって思うことは、「すごいイベントを作るぞ！」より「卒業前に素敵な思い出を作ろう！」の考え方が軸だったかもしれません（申し訳ない、）。

人は責任を他人に委ねることで安心感を得ると言います。今回もそのようなシーンがいくつかあり、チームメンバーほとんどが山口ノアさんに頼っていたと思います。企画ということもそうですが、そんなリーダーを見て人を引っ張っていく能力について改めて考える機会になりました。他人よりダントツ優秀な能力やスキルがあるわけではないのですが、自分から先に行動する、であったり一見めんどくさそうに見えるものをやりこなせたり、スキルとは少し離れてメンタル的な面を強く見せることでチームを引っ張ることができるんだ、と思ったことが正直な感想です。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

チームプレイというのは私たちが今後どんな道を歩もうと、必要となるものであり、そこで活かせる自分の長所を磨き上げることは人生の課題と言っても過言ではないと思っています。今回は、高学年になっては珍しくサポートに回って活動しましたが、サポートとして見える要素もきちんとあることに気づきました。

正直、チームに色々指摘したいものはたくさんありましたが（実際たくさんしてきましたが、）、あえて言わないことも、そういう盤面に繰り返して直面する時、そういう時にこそ使えるようにしていきたいと思っています。簡単にいうと、タイミングを測ることを上達できたと思い、今後どんなチームワークがあっても、適応できるかなと思います。

短い間でしたが、ありがとうございました。

4. 来年の実行委員会に向けて

サポートしてくれる人が周りにいるってことを常に念頭に置く必要があると思います。つまり、学生が企画するから学生だけの話し合いで完結させようとせず、大人の意見や添削などに基づき、プロジェクトを進んで行って欲しいなと思います。

学生だけで完結するのもとてもいいと思いますが、阪神まち大学は、イベントを完璧に作ることより（もちろん大事ですが）その一連の取り組みを通して成長していく、経験を積んで次に活かしていくことを目的としていると考えているため、できれば一つの行動を取るときにもいろんな人の意見を吸収してほしいと考えています。頑張ってください。

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 法学部 法律学科 4年
氏 名	町田 真之介

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	主に大まかな流れの説明や、役割決めを行いました。この日は初の顔合わせということで少し緊張しておりましたが、気軽に接してくれてくれたので嬉しかった思い出があります。	3点 対面で参加していた皆さんと話すことができたのは高評価でしたが、一方でイベントを行う目的をいまいち理解できていなかったのが低評価となりました。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9月)	イベントを主催するにあたってそのテーマ決めや、抽象的なイベント内容の決定を行いました。独特の視点から意見が出せたと思いますが、その際にイベントの目的とのズレが生じたことが残念でした。	3点 独特の視点から多角的な意見を出せたことが評価ポイントとなりました。ですが、zoom ミーティングの話し合いに関して、積極性が欠けてしまったのがマイナスポイントだと思われます。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9月,10月)	この期間は、主に資料作成のメンバーとして活動しておりました。事業団体や一般参加者に配るものなので、作成するのに責任を感じましたが、無事に完成できたので良かったです。	3点 資料作成の際に、誤字や脱字、入れておくべき事項等の振り返りを行っておりました。その甲斐あって、本番まで特にトラブルも無く進めることができましたと思います。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11月)	自分の役割の確認を行い、それをリハーサルで調整しました。リハーサルの時間が短かったことが心配でしたが、ある程度確認は行えたので安心しました。	4点 リハーサルの際に綿密なタイムスケジュールの確認を行えたためです。短い間でしたが、想像以上に良い調整が行えました。
阪神つながり交流祭 当日 (12月)	本番では投影係や誘導係を担当しました。参加者が想像以上に多かったため、正直緊張しておりました。ですが、リハーサル通りに進めることができたので良かったです。	4点 本番もリハーサル通りに進めることができたため、その点が高評価となりました。ですが、自分の仕事の一つを他の方に任せてしまったことが、マイナスとなりました。

1-②

役割	活動内容と感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
資料作成	事業団体や一般参加者へ配布する資料の作成を行いました。時期によって仕事量に違いがありましたが、何とかやり遂げることができ、良い経験となりました。	3点 資料作成の際に、誤字や脱字、入れておくべき事項等の振り返りを行っておりました。そ

		の甲斐あって、本番まで特にトラブルも無く進めることができました。ですが、チーム内での仕事量にも大小があり、もっと仕事を引き受けるべきであったと思います。
--	--	--

2. 「阪神まち大学」で学んだこと

この阪神まち大学を通して、組織で物事を進めていく上で「報告・連絡・相談」は最も大事な要素だということを学ぶことができました。例として、上述しております担当していた業務を他の方に任せることが挙げられます。もし任せていなければ、私はストレスで参っていたかもしれません。これは私が誰かに相談をしたという行為から始まりました。また、それまでにできるだけ多くのコミュニケーションをとっていたこともあり、精神的にも簡単に連絡をすることが可能でした。そのため、有事の際にも無事に任せることができたのだと思います。

加えて、振り返りも行っていたことから、考え抜く力も身に付けることができました。考え抜く力は生活する上で一日一日を効率的に過ごすために必要な能力でもあるので、かなり有意義な日々を過ごせたのではないかと思います。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

まずは、就活で活かしていこうと思います。前年度では人物試験が残念な結果となってしまいました。ですが、今回で得た経験を通して、来年度は合格へと導き、無事に就職ができるように尽力していこうと思います。また、一日単位で振り返りを行い、PDCA サイクルを回していこうと考えています。その際、より効率的に回していけるよう活かしていきます。次に、社会人として生活をする上でも活かしていこうと思います。私が目標としている人物像として、周りから尊敬される人を目指しております。そのため、上記で得た経験はそういう人材へとなれるように活かしていきます。

このことから、阪神まち大学で得た経験は人生においていつでも役立つ能力だと思われます。また、上記に限らず、私的な活動においても活かしていき、人生を楽しんでいきます。

最後に、約3～4 か月という短い期間ではありましたが、この間に私はたくさんの学びを得ることができました。これも仲間の方々や、こみサポ、県の皆様のご協力があってのことです。ありがとうございました。

4. 来年の実行委員会に向けて

阪神まち大学はイベントの企画立案・運営を一通り経験することができます。また、この経験の際に様々な能力も身に付けることができます。ですが、経験に関しては継続を、能力に関しては積極的でなければいけません。皆さん(来年の実行委員会の方々)は、何かしらの目的を持って応募された優秀な方々だと思いますが、今一度、このことを頭の片隅に入れてみてください。

それでは、イベントの企画立案・運営をスムーズに行うべきポイントに移ろうと思います。それはできる限り対面でのミーティングを行い、気兼ねなく話せる関係に早い段階からなっておくことです。そうしておけば、いかなる話し合いにおいても多くの意見の出し合いが可能となります。加えて、どのようなイベントを行うかの方向性は、早く決めておいた方が良いでしょう。

キックオフミーティングから本番までは半年も無く、短い期間となっておりますが、有意義な日々になれるよう頑張ってください。最後に仲間からの言葉をお借りしますが、この阪神まち大学が行うイベントは失敗しても良いとのことなので、思いっきりやってみてください。

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 総合政策学部 都市政策学科 3年
氏 名	中村 莉果

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
----------	---------	------------------------------

キックオフミーティング (最初に会った日)	県・こみさぼ・学生メンバーとの顔合わせがありました。 丁寧なガイダンスを受けたことで、安心して取り組みそうだと感じました。役割分担を決める段階から、先輩後輩関係なく積極的に発言してくれたおかげで、良い雰囲気の中で進めることができました。また、私は初めて LINE WORKS を使用したため、最初は少し戸惑うこともありましたが、気軽に相談することができ、不安を解消できた点が良かったです。	4 点 緊張しつつも、前向きに取り組もうとする姿勢でメンバーと交流できたから。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9 月)	各自が宿題としてアイデアを考え、MTG で報告し合いました。メンバーが 8 人いたため、アイデアの幅が広がる一方で、整理するのが大変だと感じました。あらかじめ範囲を設定したり、新しいアイデアを出すことと同様に、絞り込む作業が重要だと学びました。 また、私自身、下見や合同 MTG に参加できないことも多かったのですが、次週の定例 MTG で報告をしてもらえたり、書記がまとめてくれた議事録を確認することで状況を追うことができ、とても助かりました。	3 点 他のメンバーの進行の仕方や、たくさん出たアイデアを否定せずに進める方法を学ぶことができ、良い経験になったから。 一方で、ある MTG で司会を務めた際、プロジェクトの方針・計画を見据えることが難しく、かなり頼ってしまった部分があったから。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9 月,10 月)	団体へのインタビューを行いました。事前に聞くべきことをまとめ、それに沿ってインタビューを進めました。企画案を詰める段階では、メリットとデメリットを整理しながら進めました。また、その都度、こみサボとの連絡が必要となる場面が多く、現在の状況で私たちに何ができるのかを考えるのが難しいと感じました。	4 点 書記を担当した際には、簡潔にまとめることを心がけた。ただ、必要事項を聞き取るのに集中しすぎてしまい和やかな雰囲気づくりが足りなかったと感じたため。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11 月)	MTG では、シフト表を基に各自が疑問点を洗い出しました。 リハーサルでは、細かく司会進行の確認を行いました。私は司会ではなかったため、その間に自分がどのように動くべきかを確認しました。また、冊子の作成作業では、一緒に作業をしながら話すことで、さらに仲を深めることができたと感じました。	4 点 本番を想像しながら動きを確認し、その時点での不明点を解消することができたため。
阪神つながり交流祭 当日 (12 月)	学生団体・連携団体や一般参加者の受付業務を担当しました。本来は団体の代表者のみに資料を配布する予定でしたが、学生がバラバラに到着する団体もあったため、少し戸惑いながらも臨機応変に対応しました。また、報告用の写真撮影や掲示板に書き込みを促す呼びかけも担当しました。 片付けの際には、団体の方々とコミュニケーションを取りながら協力して進めました。	5 点 受付は非常に緊張しましたが、丁寧な対応を心がけることができたから。 また、参加者に声をかけて交流を活発にしようと努めた。

1-②

役割	活動内容と感想	5 段階評価と評価理由 (Ex. 5 点。なぜなら～)
資料作成チーム	前年のパンフレットを参考にしながら、どういう情報を盛り込むべきか、を考えながら資料作成を行いました。その際、自分の担当分が終わったら、他の人の分も先にやっておいたり、はやく進むように助け合いました。	4 点 みんなでタスクを分担することで、一人一人の負担を軽減することができた。ただ、タスクの割り振りについては他の人に任せてしまう部分があったため、自分ももっと積極的に意見を出したり、方向性を示せたら良かった。
回答書を踏まえた団体さんとの MTG	返ってきた回答書の修正を行い、それをメールで送付しました。その後、団体さんとの MTG を実施しました。回答書の全てに目を通し、字数や記載漏れがないかチェックする作業は思った以上に大変でしたが、丁寧に確認することを心がけました。	3 点 団体さんとの MTG ではほとんど発言する機会はなかったが、プロジェクト全体の状況を把握するためにも参加した意義はあったと感じている。また、メールを送る際に団体のメールアドレスではな

		く、自分の個人メールアドレスから送ってしまうミスがあったが、メンバーがフォローしてくれたおかげで対応でき、とても助かった。
--	--	---

2. 「阪神まち大学」で学んだこと

チームでの役割やコミュニケーションの重要性について深く学びました。特に、アイデアがたくさん出る中で、進行をスムーズに進めるためにはどうすべきかを他のメンバーの進行方法や発言を参考にして学ぶことができました。意見を求められた際、議論に波風を立てたくないという思いから発言を躊躇することがありました。ですが、その中でも自分の意思表示を積極的にすることの重要性を学びました。また、サポート役の方が自分に向いていると感じる面も多かったです。ミスが発生した際も、他のメンバーが惜しみなくサポートしてくれる姿勢に感銘を受け、協力し合う重要性を学びました。さらに、団体への回答書送付やメールの文言、期日を守ることなど、細かな気配りが必要であり、実際にそれを行うことで、業務における注意深さや配慮が大切だと実感しました。

これらの経験を通じて、私はチーム内での協力を重視する姿勢や、迅速かつ正確に対応する力を養うことができました。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたい

就活のインターンシップや面接では、オンラインでのやり取りが増えるため、今回学んだオンラインにおけるコミュニケーションの取り方、特に安心して発言できる空気作り方を活かしていきたいと考えています。また、普段はあまり下級生や先輩との関わりが少ない中で、異なる立場の人たちと協力し、意見を交換することができたことは貴重な経験となりました。今後社会に出るにあたって、様々な年齢層や役職の人とコミュニケーションを取る機会が増えると思うので、その時に今回の経験を活かしたいと思っています。

今回の活動では特に役職に就くことはありませんでしたが、今後は自分から積極的に意見を出し、自分らしくリーダーシップを発揮したいと考えています。また、役職の有無や年齢差などに関係なく、チームに貢献する姿勢が大事だと改めて実感しました。どんな状況でもチームのために必死に動き、サポートできる人間でありたいです。

4. 来年の実行委員会に向けて

私は、大学3年生の時、このイベントに参加しました。それまで先輩と関わる機会があまりなかったので、このイベントを通じて先輩方と接することができ、就活についても色々とお話できたことがとても良い経験になりました。就活やバイト、サークルなどで日々忙しいかもしれませんが、普段関わることの少ない人たちと話すことは、ちょっと息抜きになると思います！！

話し合いの中では、議論が行き詰まる場面もあるかもしれませんが、明るい雰囲気の中でこそ良いアイデアは生まれると思うので、楽しむ気持ちを大切にしながら、ぜひ頑張ってください！！

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 総合政策学部 都市政策学科 3年
氏 名	山口 弥海

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	【内容】 ・メンバー、こみサポの方々、県職員の方々との顔合わせ。 ・自己紹介や県の方からの説明の後、メンバーだけで役割分担&MTG 日程決め。 【感想】 ・何か役割を担当しようと思ったが、初対面な上に zoom での参加だったため、なんとなく言い出しづかった。チェさんが「下級生がリーダーで引張って、上級	2点 ・緊張して全然発言できなかったから。

	生が副リーダーで支えるのはどうか」と意見して範囲を絞ってくれたので下級生が声を出しやすい雰囲気になったと思う。	
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9月)	【内容】 ・企画アイデア出し（全体のコンセプトや8団体分の企画を提案した） ・イベント情報収集（スタンプラリーイベントの情報収集を担当） 【感想】 ・私用のため、会場下見や親睦会、合同 MTG に参加できなかった。メンバーと仲を深めたかったが、自分だけなかなかメンバーと対面できず、なかなか打ち解けられなかったのが痛かった。 ・企画案を出し合った結果、「アート」という抽象的テーマで決定。最初は正直あまりイメージが湧かなかったが、「堅い感じではなくアットホームは雰囲気の交流会したい」という目標はメンバー間で一致し、方向性として定まったので良かった。ただ、その後何度か MTG をしてもメンバー間で「アート」の認識が異なっていたので、話が噛み合わないことがあった。もう少し早く指摘できていたら良かったと反省。 ・下見に参加できなかったため写真を多めに撮ってきてほしいと頼んでいたが、写真に加え動画も取ってきてくれて、スケール感を感じやすくてわかりやすかった。後々、確認したい物資の中に、写真では撮っていないが動画の中に写り込んでいるものがあったので、動画で撮って回るのは有効だと思った。	3 点 ・下見や対面 MTG に参加できなかったから。 ・あまり画期的なアイデアなどは出せなかったが、課題はしっかりこなした。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9月,10月)	【内容】 ・団体インタビュー（ゆかなかさん担当） ・企画案詰め ・10月下旬～広報始動 【感想】 ・日程の都合上、1 団体のみしかインタビューに参加できなかった。インタビュー中の雰囲気から、交流祭に対する実行委員会との温度差をひしひしと感じ、どうすれば団体さんにも前のめりに参加してもらえるかを課題として持ち始めた。広報の担当になってから、団体さんに興味を持ってもらえる投稿をしていこうと強く思ったきっかけとなった。 ・企画案に関しては、「団体の一言」の方向性と「スタンプラリー企画」についてかなり話し合いの時間を取った。正直どの案も良くて決めきれない部分があったため、私たちが何を大事にしたいかを考慮した結果、親しみを感じられる一言や、「つながり」をコンセプトにしたスタンプラリー企画に仕上がり、たくさん悩んで意見を出し合ったかいがあったなと思う。	4 点 ・参加団体でのインタビューからくみ取った課題に向き合い、自分の出来ることを最大限やれたと思うから。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11月)	【内容】 ・各チームでの活動 ・追加団体の対応 ・リハーサル 【感想】 ・この時期になるとそれぞれのチームでの活動が主になり、加えて追加団体の対応なども入ってきたため、誰が何をしているのか、これから全体として何をしなくてはいけないのかが把握できなくなっていた。そんな時にリーダーが全員＆全チームのこれからのタスクをまとめてくれたものを共有してくれたおかげでお互いの状況を把握して連携を保ち、宙に浮いた状態から脱することができたと思う。	4 点 ・広報や冊子チームでの仕事に専念していた。 ・他チームの状況について、自分から知ろうとする余裕がなく、全チームを掛け持ちしている乃亜さんの仕事の負担を軽くするため少しだけ作業を多くこなすくらいしかできなかった。
阪神つながり交流祭 当日 (12月)	【内容】 ・受付 ・司会補助 【感想】 ・実際に受付業務をしていると、流れを完璧に固められていなかったことに気づいた。団体さんも全員が一緒に来るわけではなかったなので、代表者より先に来た人の	5 点 ・臨機応変に対応しながら、最後まで精一杯自分の仕事をしっかりやり遂げることができた。 ・ブースセッションで自

	対応や、時間ギリギリにきた団体さんに荷物を先に置いてもらうか説明を聞いてもらうかといった判断など、臨機応変な対応が求められた。 ・前日に司会の後半部分を頼まれて自分にできるか不安だったが、頼ってもらえたことが嬉しく、それに応えたいと思った。メンバーがお菓子や励ましの言葉をかけてくれて温かさを感じつつ、本番の司会では、ユニバのキャストの気分で明るく頑張った。普段一緒にいる莉果ちゃんをびっくりさせられたので満足でした。 ・ブースセッション中は、自分も参加者の一人となって、各団体のブースを楽しんだ。特にカンタービレさんのブースはいつ行っても盛況していて、音楽を取り入れたのは今回初だったらしいが、フロア全体の雰囲気も明るくなり、やはり音楽の力は偉大だと感じた。 ・45分ほどで回り切った参加者が出てきて暇を持て余していたため、早い内にブースセッション時間を短縮し、閉会の時間を早める判断ができたのは良かった。今後もそのくらいの時間感覚でいくか、参加団体をさらに増やしてもいいと思う。一方、暇な時間の休憩所として交流ボード用の椅子に座って、そのついでに付箋を書いてくれる人もいたので、意図しない形で作用していたのが個人的に面白かった。 ・課題として、混んでいるブースと空いているブースの差が激しかったため、体験型の企画がない団体は特にプロデュースを工夫する必要があると感じた。また、誰かが言っていたことだが、各団体のやる気を引き出すために、発表内容を評価して最優秀賞を決めたりするのを検討してみるのもいいかもしれない。	分も積極的に参加することで、団体さんの活動への理解や関心が深まった。
--	---	---

1-②

役割	活動内容と感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
冊子	【内容】 ・スタンプラリー企画の内容確立（スタンプラリー形式⇒ポスターを集めて自分だけの冊子づくり形式へ変更） ・イベントサブテーマの決定（阪神を盛り上げる大学生を知ろう！） ・冊子形態の決定（パンフレットと一体化、） ・ポスター作成（片面、カラー。内容：団体の一言/活動上の工夫/学び/実績/クイズ/団体 SNS） 【感想】 ・企画内容の確立までとても時間がかかって焦りもあったが、その分内容を詰められたのでかなり完成度が高い冊子ができたと思う。 ・冊子形態に関しては、各自のイメージを絵や言葉で補って伝え合ったことで、メンバーの認識を統一して形にすることができた。 ・「団体の一言」や「クイズ」など、団体によって捉え方が変わりそうな項目に関しては、こちらが説明とともに具体的な例（ゆかなかさんの団体の一言例「言語の壁クラッシャー」など）を示すことで、共通認識を持ってもらえるよう図った。	4点 ・どうすれば団体の魅力が存分に伝わるか、そしてそれを予算内で実現させるにはどうすればよいかを考え、形にすることができた。 ・こみサボさんや県との連絡を乃亜さんに任せきりになってしまい、把握しきれていないことがあった。
広報	【内容】 ・阪神つながり交流祭公式 SNS の運用（インスタと X。内容：メンバー紹介、交流祭の説明、団体紹介、チラシ、本番までのカウントダウン、活動日記、定例 MTG の報告） ・チラシ作成 & 配架 【感想】 ・「阪神つながり交流祭ってなに？」という疑問に一言で説明できないこと、メンバー間でも当イベントの認識が曖昧だったことを問題として感じていたため、どんなイベントなのか、当日何をするのか、どんな人に来て欲しいのかを明確にさせて、イベント説明の投稿をおこなった。 ・誰をターゲットに、どんな情報を提供するかを意識して SNS 運用した。ハッシュタグを毎回少し変えたりすることで、いろんな人の目に映るようにした。 ・カウントダウン投稿の提案はかなりギリギリのタイミングだったにもかかわらず	5点 ・昨年の広報の改善点の洗い出しから始め、見た人が欲しい情報発信と親近感を持ってもらえるような広報を心掛けた。

	ず、メンバー全員協力的で、提案した3日後には5日分の動画が集まって感動と感謝で溢れた。 ・初めから広報チームを始動していたら、SNSを見てくれる人にも実行委員の変化や企画ができていく経過がより伝わっていいかもしれない。	
--	---	--

2. 「阪神まち大学」で学んだこと

【チームでの役割】

あまり率先して発言するタイプではないが、みんなが出してくれた案に対して多角的に深掘って考えることで、企画の完成度を上げることに貢献できたのではないかなと思う。

山田君曰く、私は周りが一点しか見ていないときもいろんな視点をもって見れているらしく、同じチームの子からFBしてもらえたことで客観的な強みが分かった。また、広報担当としては、フォロワーや反応が多いわけではなかったが、承認欲求が満たされなくてもモチベを高くやり続けられていたことを褒めてもらった。確かに団体さんたちが見ている保証もない中だったが、ひとつひとつの投稿にクオリティを求めて時間をかけたのは自己満足の部分もあったし、なによりまち大のみんなが褒めてくれるのがモチベで、チームのためなら頑張れるのが自分の強みかなと思った。

【学んだこと】

自分と他の人とでは、同じ言葉でも受け取り方が異なってくるということ。相手の言葉から理解していたことが相手の意図と全く違っていったことや、私の言葉足らずな部分で相手に誤解を与えてしまっていたりすることが多々あった。簡潔にわかりやすく説明するのが得意ではないと日頃から感じていたが、MTGの中でのメンバーの話し方と比較していくうちに、自分の中での常識を無意識のうちに省いてしまっていたことが要因の一つかもしれないとわかってきた。その結論に至るまでの過程を話さずいきなり結果にいていたので、初めて聞く側の気持ちになって言葉を尽くして話すことを意識し、私には脳内で考えていることを垂れ流すくらいがちょうどいいというマインドでいきたいと思う。このように、チームで活動する上で少しの疑問も放置すると後々大きな誤解になってしまうことを身をもって学び、些細な事も言葉にしていく必要性を感じた。また、自分があまり分かっていないときは意外と周りもわかっていないことも知ったので、話し合いの流れを止めてしまうとか聞くのが恥ずかしいからと疑問を無理やり飲み込むのではなく、「～ということですか？」など認識を擦り合わせつつ進めることも議論の上で大事なことで、流れの一つなのだと学んだ。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

- ・今まさに就活真っ只中で、自己分析をする中でも自分に強みなんて浮かばず、まち大の活動でも、他のメンバーみたいに周りを引っ張るような力もないと思っていたが、まち大のメンバーがそれぞれの性格や得意なことを活かして互いに補完し合って素敵なイベントを作り上げられたので、どんな人の凹凸も必要なんだと強く思った。また、こんな私のことも仲間がいいところを見つけて認めてくれたおかげでその部分には自信を持てたし、今後も無理せず自分らしい立ち位置で、できることを精一杯やっていこうと思えた。
- ・キックオフ MTGでの役割分担で声を上げられなかったため、チラシ作りや広報など、その後の活動で新しく出てきた役割分担は自分のやりたいことを率先するようにしていた。「やったことがないし難しいかも」、「他のメンバーの方がもっと上手くやれるかも」といった不安はあったが、結果的に全てやってみて良かったと思う。初めてやることでも、メンバーの助けも借りながらではあったが、自分でもやればできると自信を持てた。今後も、自分の気持ちを抑えずやってみたくことは全部やってみて、自分の可能性を広げていきたい。
- ・今後、チームでの活動をするうえで大事にしたいのは、メンバー同士が言いたいことを言える雰囲気づくり、そして互いの状況を把握しつつスケジュール感を持って行動すること。初めにアイデア出しする場合がほとんどだと思うので、その時にどれだけメンバーの意見を引き出せるかがその後の関わる。そのため、安心して発言できる環境の一部に自分になることを意識していきたい。また、それぞれが自分の作業に集中することも必要だが、互いの状況を把握して全体像をはっきりさせながら進めることで不測の事態にも対応しやすくなるし、精神的にも余裕が生まれることも学んだ。

4. 来年の実行委員会に向けて

この規模感のイベントを、これほど学生の自主性に任せてもらえる機会はそうそうないと思います！15回と続いてきたイベントではありますが、型にはまる必要は全くないです。私たちが「アート」をテーマにした交流祭にしようと思っていない斬新は方向性に決めた当初は、大人の方々をととても不安にさせてしまいました…笑 しかし、こみサボさんも県の方も、実行委員が実現したいことに対して最大限寄り添ってサポートしていただきます。自分たちのアイデアを楽しんで、

安心してチャレンジしてってください！

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 総合政策学部 メディア情報学科 2年
氏 名	山口 乃亜

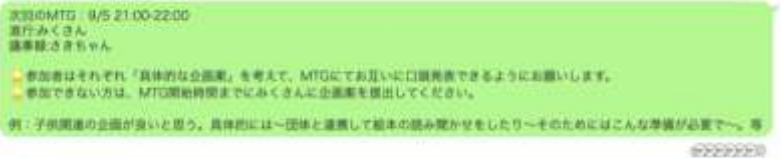
1.「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	兵庫県阪神南県民センターにて、初めてメンバーと会いました。知り合いが1人もいないため、とても緊張しながらでしたが、コミサポのみなさんがとても優しく迎えてくださいました。副リーダーをやるかと思い、手を挙げましたが、リーダーは1,2回生が、副リーダーは3,4回生が担当するという流れになったため、私がリーダーになりました。	4点 積極性をもって参加できたため。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9月)	まずメンバー各々で企画を考え、その意見交換をしました。アートをメインとして活用する案が有力でしたが、現実的に可能なのかを考えていくと、どんどんと企画の形は変わりました。最終的にアートを取り入れたポップなデザインにしつつ、軸はオーソドックスなブースセッションにしようと、メンバー間で話し合いました。	3点 最終的な案が定まるのに時間がかかったため。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9月,10月)	自分たちの中で企画がまだ完璧に定まっていなかった中で補助団体さんとのインタビューだったので、あまり余裕がなかったです。気をつけた点としては、①まだ決まっていなかった企画について曖昧に触れないこと②出来るだけ色んな実行員のメンバーがインタビューを担当できるようにすること③インタビューの前後で、打ち合わせや反省会をすることです。合同 MTG では、自分たちの間だけでは見落としていた点や、イベントとして非現実的な部分を教えていただけました。	4点 インタビューも良い形で進められ、インタビューの議事録もうまく共有できたため。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11月)	シフト表を作って全員が何時に誰がなにをしているのか把握できるようにしたので、その確認を最後の定例 MTG とリハーサルどちらともで行いました。いつも ZOOM で話し合いをしていますが、実際に会って話し合う方がより理解が深まったので、本番前にもっと対面 MTG を増やせばよかったと今では思います。本番までに見落としている点はないか？準備し忘れていた物はないのか？など、とても不安になりながら本番前最後の MTG を終了したのを覚えています。	4点 最初はリーダー、副リーダーしか全体の流れを掴めていませんでしたが、最終的には全員が全体の流れを把握できたため。
阪神つながり交流祭 当日 (12月)	当日は、事前に作っていたシフト通りに階ごとに担当分けをして作業を進めました。実際に会場で作業を開始すると、シフト表で想定していなかった動きがたくさん追加されたので、事前にシフト表等のタイムスケジュールを組む場合は、余裕のある想定をすべきだと思います。全体的にとっても良い雰囲気でも、かつスムーズに進んだので、リハーサルやシフト表の確認がきちんとできていた結果だと思います。元々想定していたブースセッションの時間が実際やってみるとかなり長めだったので、そこを予想できていたらよかったと思いました。ですが、間延びしている空気を感じ取って時間短縮の判断ができたため、臨機応変に動けたのではないかと思います。	5点 大成功だったと思います！

1-②

役割	活動内容と感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
ポスター企画&デザイン立案	10月中旬から、会場内で配る団体説明ポスターについて話し合うために活動を開始しました。スタンプラリーのように、ブースセッションを全てまわるモチベーションを作りたいという思いから、ポスターを集めて冊子にするという最終案まで行きました。	5点 アイデアもデザインも参加者さんから好評だったから。

広報	11月上旬から、広報の活動を開始しました。活動内容としては、①Instagram/Xの投稿 ②学校/知り合いへのポスター配布 ③コミサポ/県の方々への広報の依頼をしました。	4点 自分より前の代と比べて、かなり活発に動けたから。
交流ボード	11月上旬から、当日の会場に設置する交流ボードについて話し合うために、話し合いを開始しました。交流ボードとは、参加者の方々に感想等を書いていただいた付箋をまとめて掲示するボードを指します。それぞれの部屋に、一つずつ設置するのか、全体で一個にするのか、デザインはどうするのか、付箋に書く内容のテーマは何にするのか、話し合いました。	3点 もっと早く決められたことだったと思うのに、メンバー間のチームワークがうまくいかず、間延びしたから。
回答書を踏まえた団体さんとの MTG	11月下旬から、活動を開始しました。回答書の文面だけでは分からなかったことを、団体さんへ実際に聞くことができたため、非常に重要な MTG となりました。どんな些細なことでも、互いに確認し合うことで、双方の「当日のイメージ」のギャップを少しでも無くせたのではないかと思います。	3点 回答書/最終 MTG の期限を決めるメール送信の段取りが悪かったから。
統括	実行委員の活動期間、チーム全体の統括を担当しました。 主な活動内容 ・ MTG の主な構成を考える 5点 →進行と議事録はメンバー交代制で行っていましたが、質の低い会議にならないよう、MTG の軸は全て自分で考え、あとは進行役に任せるという形をとっていました。毎回、進行役の人と相談しながら MTG の内容を練っていたので、全員で責任感を持って MTG を作り上げる仕組みづくりができたと思います。 ・ 主な連絡 4点 →コミサポさんからの連絡をメンバーに伝えたり、提出物等の期限が近づいているのに動きがなさそうなチームへの声かけをしていました。連絡事項を送る上で特に心がけていたことは、必要な情報を全て含みつつも、見やすい形で送るということです。ファイル形式だったり長すぎる長文ですと、忙しいメンバーに読まれない可能性があると考えたため、出来るだけ見てすぐ伝わるような連絡に工夫していました。↓実際の例  ・ 雰囲気作り 4点 →ほとんど全メンバーが初対面といった状況だったので、少しでも距離を縮めて話しやすい雰囲気作りをすべきだと思い、“メンバーに頼る”ということを初日から行いました。少しでも分からないことがあればメンバーに沢山相談しました。こうすることによって自分自身も安心できましたし、メンバーも“リーダーを支えなければならない”という責任感から積極的に参加してくれるようになったのではないかと思います。一方で、個人的な反省点としては1年生への接し方と真面目な時の雰囲気です。1年生ともっと積極的に近い距離で話せたらよかったと反省しています。また、いつも笑顔で明るく進めていた分、つい集中して真剣に意見を述べる時には、怒っているような怖い印象をメンバーに与えてしまったようで、塩梅が難しいと感じました。 ・ イベント当日の統括 5点 →当日のスケジュールを考えている時、県の方からアドバイスをいただいて統括の担当が必要だと気が付いたのですが、実際に本番を迎えると改めて統括の仕事がなければ成り立たないと実感しました。全体の流れを把握しているからこそ、細かいところまで指示・判断ができたと思うので、上手くできたのではないかと思います。	4.5点 全体的によい雰囲気が進み、最終的にも良い形で終わられたから。

2. 「阪神まち大学」で学んだこと

特に学んだことは、チームメンバー間の熱量の大きさに関することと、資料・メールの文章の作り方、そして自分自身のスキルについてです。

まず、メンバー間の熱量についてです。大学の授業等でのグループワークでは、クオリティの高いものを作りたいと思っている私と、やる気のない他のメンバーとのギャップでとても作業がやりにくいことが多かったのですが、阪神まち大学の実行委員は「良いイベントを作りたい」と思って集まっている集団だったので、とても活動しやすかったです。同じ熱量を持ったメンバーが集まればこんなにも楽しいのか、と実感することができました。

また、今までメールをほとんど使ったことが無く、資料も作った経験がなかったのですが、コミサボさんが一から丁寧に教えていただきました。本当に感謝しています。

今回の活動は、メンバーや大人の方々との接し方、チーム全体で責任感を持てるような流れの作り方、など、今までのリーダー経験を通じて「こうすれば良いのでは？」と思っていたことを再確認できるような機会になりました。一方で、今までの自分の経験だけでは成立しないこともありました。例えば会議資料の事前準備です。そもそも会議をするという経験もありなかったですし、大学のレポートなどの癖で、提出物をギリギリに仕上げてしまう悪い癖があったので、コミサボさんや県の方々との MTG で事前に資料を送れていなかったのが大きな反省点です。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

「阪神まち大学」での学びの中から、今後の就職活動、サークル、プロジェクトにて特に活かしたいことは、①人に頼ること ②自分の可能性を低く見過ぎないこと です。今回の活動を経て、自分 1 人でアイデアから完成まで考えることが苦手だと自己分析できたので、どんな役回りであっても自分 1 人で解決しようとしすぎないことが重要かと感じました。今後、面接準備や ES 作成をするときに第三者の目線から指摘をもらったり、サークル活動でわからないことがあったら先輩や後輩に積極的に相談しながら進めていきたいと思います。また、元々自信がなく今回の活動にも参加するかどうか悩んでいた自分ですが、今回の活動を通して、「とりあえずやってみよう、やってみたら意外とできるかもしれない」という気持ちで自分の苦手な分野や新しい領域に足を踏み入れていく思い切りがあれば、もっと成長できると実感しました。今後、就活等で様々な壁にぶつかっていくと思いますが、自分の可能性を低く見過ぎず、思い切って足を踏み入れる勇氣を持って前へ進んでいきたいと思います。

4. 来年の実行委員会に向けて

【人間関係について】

今回の活動で一番良かったと思っているのが、チームワークです。私たちの代は、全員が親密に楽しく雑談でき、一方で真剣な話し合いの時はきちんと真面目に話し合える関係だったので、非常に活動しやすかったです。もちろん性格の合う合わないはあるかと思いますが、早い段階で互いに良い点、尊敬できる点を見つけて、活動できれば良いのではと思います。リーダーになる方は、もし自分と性格の違う人と上手く距離を縮められないメンバーがいたら、ぜひメンバーの素敵なところ、得意なことなどを伝えて、良い関係になるよう導いてみてはいかがでしょうか？

【全体のスケジュールを振り返って感じたこと】

毎回の MTG で 9 月から 2 月までの全体の流れを確認しながら進めていたにもかかわらず、11 月中旬から急にタスクが増えたので、大まかな全体の流れだけではなく、細かい内容(ここまでは団体さんにメールを送らなければならない、ここまでは広報のポスターが完成しなければならない 等)を 10 月の中旬ごろから見積もっておくべきだと思います。最初は本当に全体のイメージが掴めないのが、過去交流祭の資料を見たり、過去の実行委員メンバーに直接話を聞くとスムーズに進みかと思います。

【交流祭当日に関して】

各メンバーが自分のタスクだけではなく、他のメンバーが今何をしているのか、どのような流れで自分はこの準備をするのかというような全体の流れを把握することが非常に重要だと思います。

大学・学部・学科・学年	関西学院大学 法学部 法律学科 1年
氏 名	生 亀 沙 樹

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	自己紹介、交流祭の概要説明をききました。 リーダー、副リーダー、総務係を決定しました。	5点 総務に立候補することができました。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9月)	過去のイベント等を参考にさまざまなアイデアを出し、出た案それぞれの実現可能性を考えました。その際に、団体さんの負担、状況をどこまで教えるかに注意しました。自分が想像するイベントと、実行できることとのギャップが大きく、難しいと感じました。理想と現実のどちらかに偏るというより、そのバランスを上手くとりたいと思いました。「各団体×アート」と、団体を表現する手段という提案ができました。	4点 オリジナル性のあるアイデアでしたが、交流祭の趣旨や方針を明確に把握できていませんでした。その後、趣旨を再確認し共通意識を確立できました。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9月,10月)	企画の詳細を話し合いました。サブイベントを趣旨に照らして1から考案しました。役割分担して課題に取り掛かり、私は冊子のまとめ方を中心に考案しました。また、他の係の状況に対してのフィードバックも行いました。様々に仮定して「問題点を見つける」ということの大変さを実感しました。	4点 メンバー全員との情報共有を心掛けました。 より良い冊子を作製するためにどう工夫すれば良いか考えて提案できました。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11月)	昨年の報告書を参照し、当日の動きをシミュレーションしました。チラシを使い、高校生にイベントの広報活動を行いました。また、追加団体も探しました。当日の詳細な役割決定の際に、シフト表を作り、提案しました。自分の考えを図に表してメンバーに見てもらって良かったです。それがシフト表に繋がりました。 ブースの机、椅子等のレイアウトを考案しました。 ポスター等の製作事務作業を行いました。	4点 役割シフト表を提案できました。追加できそうな団体は見つかりましたが、時期的に遅く、また大学生が主体となっている団体という条件を知りませんでした。ブースでの机や椅子のイメージができていませんでした。しかし、当日は団体さんにおまかせしてしまって良かったです。
阪神つながり交流祭 当日 (12月)	3階ブース会場の備品を撮影し、担当者に送信しました。ここではバタバタとしてしまい、時間に余裕を持てなかったです。 正門前で参加団体、一般参加者等の誘導を行いました。自分自身話しかけるのは得意ではありませんが、丁寧な対応を心掛けて良かったです。タイムキーパーとして、活動発表時間を計り、お知らせしました。誘導やタイムキーパーといった役割は、私自身初めての経験だったので不安はありましたが問題なくできて安心しました。ブースでは参加者へ交流ボード等の声かけ、発表者へ時間変更の声かけを行いました。参加者が楽しんでいる様子が見られて嬉しかったです。自分自身も楽しませてもらえて感謝しています。片付けを協力して行いました。	4点 撮影はもっと詳細がわかるようにするべきでした。また写真は教室担当者個人に送るのではなく、全員にグループで送るべきでした。撮影係をつくるというより、各自が担当する教室の写真撮影したほうがスムーズだったかもしれませんタイムキーパーは信仰状況に臨機応変に対応できました。

1-②

役割	活動内容と感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
Ex.資料作成チーム	Ex. 私は～月（または～の準備段階）から資料作成チームとして活躍しました。活動において、みんなとの協調を第一に考え、自分自	(Ex. 5点。なぜなら～)

	身から先に資料のテンプレを修正するなど、メンバーが参加しやすい雰囲気作りを意識しました。	
冊子作製チーム	阪神地域における、各団体の役割をアピールするという方向で、例を挙げながらどのようにすべての団体さんに説明するかを考えることができました。 「団体の一言」という抽象的なものをより具体的で統一感のあるものに、かつ、各団体の色がわかるキャッチコピーとなれるように、丁寧に具体化できました。 クイズも交えて参加者が楽しめるようにしました。	3点 canva 作成や表紙作成など、乃亜さんに任せきりな部分があった点です。 自ら進んで作成すべきでした。

2. 「阪神まち大学」で学んだこと

チームで何か1つのものを作り上げる場合、まず初めに、全員で共通意識をもつことが重要だと学びました。そのためにプロジェクトの趣旨を全員で再確認するべきだと思います。

自身の適正は、阪神まち大学を通して、画期的なアイディアを出すことが得意なのではないかと新たに気づきました。行き詰ったときに、一度原点に戻って新しいアイディアを出したり、複数の案を合わせたり他の部分に応用したりして提案し、チームの中で活躍できると思います。

自分の得意なこと、他のメンバーが得意なことを把握する大切さを学びました。自分が苦手なことを、得意な人に全部任せるというよりも、その人が適していると思うと伝えて一人一人の意思を尊重しながら中心となる人を決めて、よりよくするにはどうすべきかを教え合うと、効率よく、また気持ちよく進行すると思います。

根本的な趣旨を共有する大切さ、得意なことの活かし方を学びました。

3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

今後別の活動、ゼミ、留学などチームで活動する機会は多いと思います。下級生だから上級生に任せるのではなく、積極的に提案し行動していきます。特に発案することは自分にしかできない部分もあると思います。

また、チーム全体を見渡して、会議の進行や日程調整などの場面で阪神まち大学での経験を活かしたリーダーシップを発揮したいです。連絡を早めに行ったり、会議において一人一人困ったことはないかなどに気を付けて進行させたりしたいです。誰かが困っている、あるいは自分が不安や心配を抱えていた場合に、一度立ち止まってそのことをメンバーに伝えられる余裕をもつことが大切だと思います。

一人で考えてみても、チームで話し合ってみても解決できない問題に直面した場合は、大人（指導員、今回でいうとこみサポさん）やチーム外の人（例えば阪神まち大学のメンバーなど）を頼ることもできるということは心に留めておきたいです。阪神まち大学でも、様々な意見を聞いてみて、直接に答えが出たことはほとんどなく、多くのヒントを選んだり合わせたりして完成できたように感じます。

今後チームで活動するときは、チーム内では積極的に活動し、他のメンバーの様子を把握できる余裕を持ち、困ったときはチーム外の人にも頼れるという手段をもって、活躍していきます。

4. 来年の実行委員会に向けて

特に1、2年生の方にお伝えしたいです。自分の意見を伝えたいとき、学年が理由で躊躇うことは、基本的にありません。自分が他者の意見を知りたいのと同じように、皆さんもあなたの考えを知りたいはずです。

私は人づきあいが得意ではありませんが、それも含めて周りの方々に伝えてみるのが大切だと思います。あえて自分の苦手な部分を他者に言うことは簡単なことではありませんが、後々その仲間と協力していくのならお互いの理解が重要になってくると思います。

LINE のグループと投票を使いすぎない程度にたくさん使ってください。全員の予定は揃わないものだと思っておいたほうが良いです。忙しい時期、暇な時期などは人それぞれなので、負担が集中しないようにしたいですね。

説教じみた言葉になってしまいましたが、私は阪神まち大学において楽しく、自由に（もはや自分勝手に？）させていただきました。兄弟姉妹みたいに先輩方に恵まれて（あと同学年の諒くんも！）楽しい経験となりました。どうか来年度も楽しく交流祭を成功させられますように。

大学・学部・学科・学年	甲南大学 マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 1年
氏 名	山田 諒

1. 「阪神まち大学」での活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

1-①

全体で行った内容	活動内容や感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
キックオフミーティング (最初に会った日)	はじめてつながり交流祭実行委員会のメンバー及び、コミサボ、県の方とお会いました。つながり交流祭の目的を学び、お互いに自己紹介をした。その後ミーティングの曜日や、リーダー、副リーダーを誰にするかなどを決めたように思う。メンバーが自分以外全員関西学院大学の方だと分かり、少し不安（ついていけるかな、仲良くしてくれるかな）と感じたが、実際に進めていくと全くその心配は不要であった。	5点 なぜなら、メンバーの全員が初対面かつ他大学の人という状況にしては、つながり交流祭についてかなり積極的に話し合いに参加することができたから。また、メンバーで自己紹介を行い、適度な緊張感及び距離感を保ちつつアイスブレイクができたから。
アイデア出し/他イベントの情報収集/会場下見/合同 MTG (アイデア確認)、 (9月)	まず、今年度のつながり交流祭のモットーとして、「地域創生のための話し合い」というお堅いイメージを払拭し、阪神地域に興味のある人もない人も、大人の方も大学生も高校生も楽しめるようなイベントにしようという流れになった。活動発表に加えて「アート」をモットーにした参加団体と参加者の交流が出来たら面白いのではというアイデアがでた。結局現実的に考えて「アート」は却下になったが、意見を出し、皆で理想を追求できたのはいい経験となった。	4点 なぜなら、おおよそつながり交流祭の趣旨や、他のメンバーの意見を踏まえながら自分の考えを論理的に述べることができたように思うから。しかし、ほかの人の意見を誤って解釈したり、自分の考えが一人よがりになったりしたことがあったため、4点とした。
補助団体インタビュー/企画案を詰め始める/合同 MTG(企画案確認) (9月,10月)	補助団体のインタビューに関しては、8団体中、7団体分参加させていただいた。最初は慣れないことも多かったが回数を重ねるにつれて、正しい質問の仕方、相手に伝わる説明の仕方、適切なアイスブレイクの行い方などを自然と学ぶことができた。また、企画書は補助団体へのインタビューを踏まえながら作成することができたのでよかったように思う。しかし、合同ミーティングにおいて、コミサボや県の方への報告の際、資料の作成、共有が直前となり、迷惑をかけたのが反省点である。	4点 なぜなら、補助団体へのインタビュー及び議事録、パワーポイントなどを用いたメンバーへの共有により、自分の話す力及び報告能力を大きく伸ばすことができたから。しかし、合同ミーティングにおいて、資料の作成、共有が直前になったり、認識がメンバーによってずれていたりしたため4点とした。
最後の定例・合同 MTG/リハーサル (11月)	この段階になると役割がかなり細分化されていった。私は主に交流ボードに関することと、追加団体(Beans Talk)に関することを担当した。また、当日の掲示物やプロジェクターに投影するスライドもCANVAを用いて数多く作成した。積極性はいいが、リーダーの乃重さんに修正して提出して頂いた物も多く、迷惑をかけた部分もあるかも知れない。また、リハーサルや事務作業は協力してできた。	3点 なぜなら、役割が多くなり、何からしたらいいのかわからなくなってしまったことがあったから。しかし、リーダーや副リーダーをはじめとしたメンバーに積極的に質問をして大きなトラブルはなかったため3点とした。
阪神つながり交流祭 当日 (12月)	A,会場設営など→事前に会議をしたこともあってある程度うまくいったように思う。しかし、私の力不足もあってレイアウト図をうまく説明できないことがあった。また、メンバー間での解釈のずれ違いがあった。もう少しここに時間をかけてもよかったかもしれない。県の人には事前にレイアウト図を見せるべきだと思う。また、写真をこの時点で撮影したのは大変良かった。(片付けがスムーズに進行した) B,全体説明、パワーポイント投影練習→おおむねうまく行った。しかし、栗田研究会が時間になっても来ないなどのハプニングも発生し	当日に行ったことに関しては、大変多岐にわたるため、A～Fに分けて評価をしていく。 A：1点。なぜなら、配置図に問題があり、当日にかなりあせってしまう結末になってしまったため。 B：3点。なぜなら、おおよそ臨機応

	た。また、Beans Talk に関してはスライドを直前に変更したため、少し手間取った。メンバーのおかげで臨機応変に対応できたので GOOD C,開会式、全体発表会→おおよスムーズに誘導ができた。カンタービレが直前になって教室の端から入場ではなく、廊下から入場したいと言う。臨機応変に対応したつもりだが、少し手間取ったかも。発表に関しては9団体だと少し少ないようにも感じたが、後ろの2チームには長めに発表してもいいですよと対応。また、寝ている人、スマホを触る人、明らかな私語をする人などはいなかったのは運営のおかげ（雰囲気づくり）これは私たちができることではないが、発表の質には団体ごとに差があった。 D,ブースセッション→私たちが思うようにできた。個人的に、つながり交流祭の中で1番成功したと感じている。コメントボードや資料集めも楽しんでくれていた。どの団体にもそれなりに人は来ていたように感じる。しかしながら、90分は少し長かったようだ。時間を早めたのはいい判断だったと思う。（実際のブースセッションは当日まで行えないため、こうやって臨機応変に対応するしかない） E,閉会式→開会式よりも明らかな雰囲気を実施。参加者にコメントを求めたり、コメントボードについて感想を述べてり双方向のコミュニケーションができた。アンケートに関しては回答完了画面を見せてから解散にしてもよかったかも。（後から100%回収するのは困難） F,一般参加者が帰られた後→速やかに片付けができた。良かった。	変に対応することができたため。しかし、もう少し趣味レーションを行うことはできたかも知れない。 C：4点。なぜなら、おおよスムーズかつ臨機応変に対応することができたとし、リハーサルも時間をかけて行うことができたため。 D：4点。なぜなら、だいたいの方がブースセッションを楽しそうにまわってくれていたから。また、参加者へコメントボードのことなど積極的に声かけをすることができたから。しかし、閉会式前に帰る人が一定数いたのは残念であった。 E：5点。なぜなら、司会を担当し、原稿をただ単に読むのではなく、参加者のコメントに更に自分の意見を加えるなどの工夫ができたから。また、明るい雰囲気をつながり交流祭を締めくることができたから。 F：5点。なぜなら、効率よく片付けができたから。
--	--	--

1-②

役割	活動内容と感想	5段階評価と評価理由 (Ex. 5点。なぜなら～)
大学メール連絡	指定8団体及び追加団体1団体とメールを用いて連絡を行った。普段メールで連絡することはあまりなかったが、大人の方やメンバーに教えてもらい、正しいメールが打てるようになった。	4点 なぜなら、おおよメールを正確に送ることができたから。
団体とのミーティング	指定8団体は2回、追加団体は1回行った。適切なコミュニケーションを取りながら、聞くべきことは短く簡潔に聞くことができたように思う。	4点 なぜなら、おおよ聞くべきことを簡潔に聞いたから。
コメントボード企画	ブースセッションの中で、「理想の阪神地域」について、参加団体及び参加者の方に意見を書いてもらうための企画を考えた。	3点 なぜなら、企画を詰めるのがぎりぎりになってしまったから。
このプロジェクトを盛り上げる！	直接的な役割ではないが、メンバーとプロジェクト以外の事でも連絡を取ったり、食事に行ったりし、皆で話しやすい雰囲気を作った。メリハリをつけて行動できた。また、お互いに相談しやすい環境を作った。友情はプロジェクトが終わった今でも続いている。これまでにいくつかプロジェクトをしたが、最も深い関係性ができた。このようにプロジェクトそのものの関係性だけでなく、お互いの本質を理解しあうことがつながり交流祭成功の秘訣ではないだろうか。	5点 なぜなら、会った回数は少ないのに大学の友人以上の友情ができたから。

2.「阪神まち大学」で学んだこと

- ・チーム活動において積極的にアイディアを出し、コミュニケーションをとることは私の得意分野であると把握した。

- ・一方で、形の認識や手先を使った作業は大の苦手だと改めて実感した。(事務作業、配置図)
- ・現実性を考え、論理的に自分の考えを述べる力が伸びた。
- ・適切な人間関係の築き方を学べた。
- ・メールの適切な打ち方を学べた。
- ・大人や他の学生との連絡マナーを学べた。
- ・司会をする機会を得れた。
- ・私のことを受け入れてくれる仲間に出会えた。

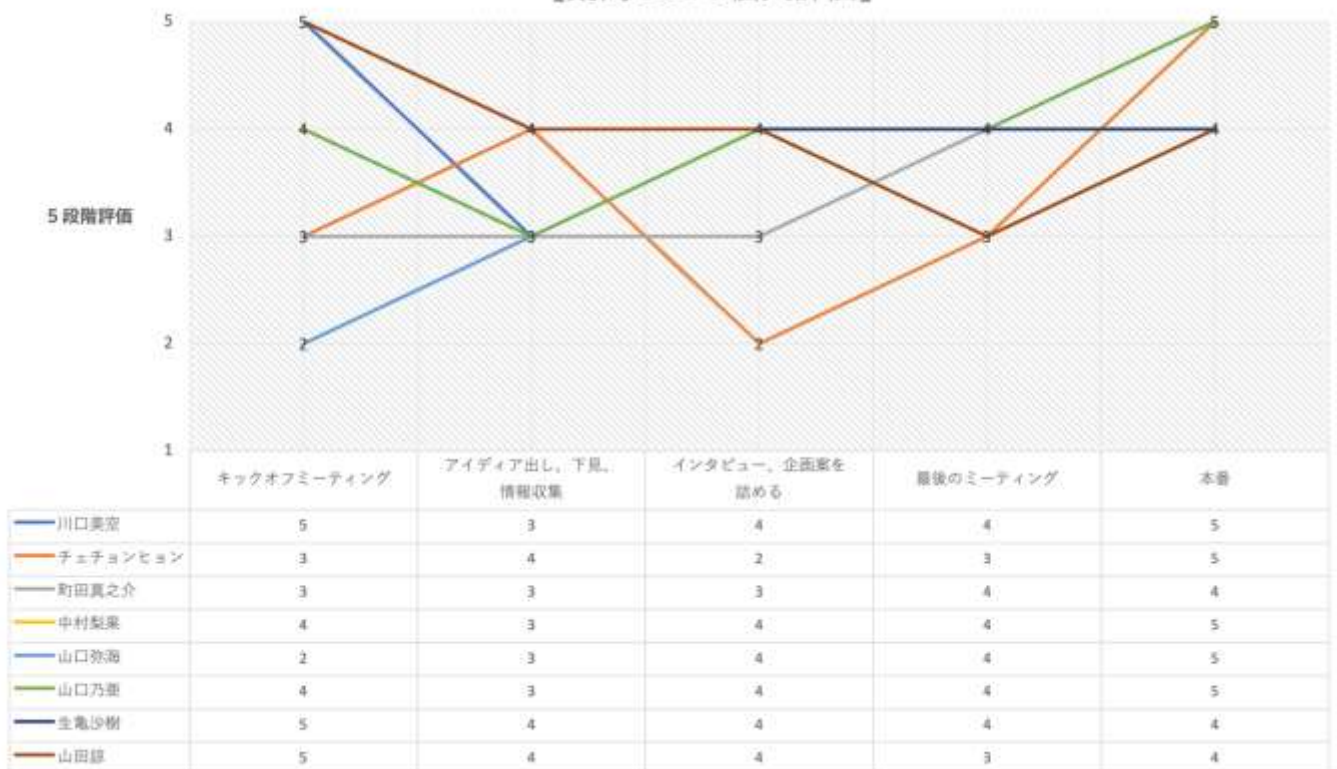
3. 「阪神まち大学」の経験を今後どのように活かしていきたいか

皆でイベントを成功させたという経験を、今後授業でグループワークをする機会や、別のプロジェクト、またアルバイト等を行う際の糧にしたい。阪神まち大学で得たコミュニケーション力を活かして、プレゼンや、ディスカッション、ディベートなどに役立てたい。また、このイベントから色々な人と関わる面白さと喜びを学んだ。今後も色々なプロジェクトに参加し、さらに多くの人とかかわっていききたい。

4. 来年の実行委員会に向けて

1. 慣れないことも多いかと思いますが、阪神まち大学の仲間がいます。わからないことは聞きあってください。
2. 大人の方の力もかりてください。(県、コミサポ)
3. 会議が多くなると思います。予定を調整して、毎週何曜日に行うと決めた方がいいです。
4. 前例にとらわれずに、面白いと思うことはどんどんアイデアを出しましょう。
5. 失敗を恐れず、どんどん行動しましょう。
6. しんどいこともあると思います。しかし、私たちが楽しむことで雰囲気が明るくなります。真剣に取り組むことももちろん大切ですが、明るい雰囲気を作ることでアイデアが出しやすくなります。
7. 勉強との両立が必要です。無理はしないでください。
8. メンバーは初対面の人がほとんどでしょう。プロジェクト以外でも一緒に食事に行く、カラオケに行くなどの機会を作り、お互いのことを知ると良いでしょう。
9. しんどいな、嫌だなと感じることもあるとは思いますが、そんな時は次のことを目標にして頑張ってみてください。
10. つながり交流祭当日「これでよかった」と心から思えること。

【期間ごとの個人評価】



5. チーム別振り返りレポート

資料作成チーム

1. チーム創設の経緯

メールや MTG を行う中で、より分かりやすい説明資料を作成する必要があったため。

2. チームの発足時期

10 月 1 日

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	・資料作成（パンフレット、開催概要、準備物に関して、回答書） ・団体へのメール連絡 ・団体へのインタビュー（2 回）
よかった点	【資料作成】 ・分かりやすい資料を作れた。 ・ワードを共同編集にし、タスク配分。完了後は、ダブルチェックを入念に行い、ミスがないかを確認した。 【メール】 ・送る内容をおおまかにグループラインで共有することで、統一したメールを送ることができた。 【団体さんとの関わり】 ・トラブルは特になく、団体さんとのインタビューでは、話しやすい雰囲気づくりと分かりやすい説明ができた。説明用のパワポを用意したため、焦ることなくインタビューできた。 ・追加団体との MTG や連絡など、短期間で対応する必要があったが、迅速に行えた。 ・決定事項だけを団体さんに伝えて、混乱を防げた。
反省点	【資料作成】 ・スケジュールを決めるのが遅かったため、資料作成がギリギリ過ぎた。 ・困りごとや質問をまとめてリスト化してからコミサボさんに聞いていたが、積極的に質問すべきだった。 ・文調をこちらで提示すべきだった。 【スケジュール管理】 ・逆算して計画を立てることができなかった。カレンダー等を使って、〇月になにをすると決められたら良かった。しかし、初めてのことが多すぎて、逆算することは現実的に不可能？ 【メール】 ・メールを送る期限を決めていたのに、それを守れなくて予定が倒れていった。 ・アドレスの入力ミス→メールが届くのが遅くなった団体さんもある ・当日のスケジュールを、資料作成の際に作った。ブースセッションを 90 分と設定していたが、当日は 80 分で終了した。過去の交流祭の時間配分を参考にしたり、追加団体数の予測を立てられたら良かった。 【その他】 ・基本的なルールがあやふやになってミスに繋がった。 ・担当者が決まっていない仕事が発生したときに、どうしたら良いのか分からない現象が起こった。

パンフレット作成チーム

1. チーム創設の経緯

スタンプラリー案から派生して、自分だけの 1 冊となるものを作りながらブースを回って楽しんでもらえるようにするため。視覚的に、形として残るもので楽しんでもらうため。

2. チームの発足時期

10 月中旬

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	・BOOK と掛け合わせたサブテーマを考案 ・冊子の形（本、カード）や束ね方（リング、ホチキス、紐、テープ）などを、さまざまなアイデアを出しながら決めた ・冊子、各団体ポスターのレイアウトデザイン作成 ・企画会議のための zoom ミーティング ・方法の企画（スタンプラリー→本、ポスター集め） ・各団体の一言の表し方とクイズの例を考えた→団体に提示
よかった点	・阪神地域における、各団体の役割をアピールするという方向で、例を挙げながらどのようにすべての団体さんに説明するかを考えた（「団体の一言」という抽象的なものをより具体的に統一感のあるものに、かつ、各団体の色がわかるキャッチコピーとなれるように、丁寧に具体化） ・クイズも交えて参加者が楽しめるようにした ・メンバーそれぞれが自分の意見を可視化して伝えられたため、具体的なイメージができた。→お互いのイメージを統一 ・団体情報入力やデザインなど、メンバーごとに役割分担できたこと。 ・丁寧に話し合いを重ねた ・急な変更に対応できた
反省点	・canva 作成や表紙作成などを 1 人のメンバーに任せきりな部分があった ・連絡があまり密に取れなかった ・最終案を決めるまでに時間がかかった

広報チーム

1. チーム創設の経緯

多くの人に周知できるように SNS 等の広報活動を開始した。

2. チームの発足時期

11 月上旬

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	・阪神つながり交流祭公式 SNS の運用（インスタと X。内容：メンバー紹介、交流祭の説明、団体紹介、チラシ、本番までのカウントダウン、活動日記、定例 MTG の報告） ・チラシ作成 ・チラシ配架依頼（メンバーにも）
よかった点	・メンバー紹介をすることで、実行委員も学生であることを強調し、親しみを持ってもらいやすくなった ・去年の広報を改善し、団体紹介投稿では写真を用いることで、団体の活動をイメージしやすくなった ・交流祭を知らない人目線での投稿を心掛けた ・メンバー紹介やカウントダウン、活動日記など、広報担当者だけでなく実行員全員を巻き込んだ広報活動ができた ・X にて、活動日記をつけることで、メンバー間での現状把握にも繋がられた ・SNS にて、興味を持ってくれそうな阪神地域の活動団体をフォローし、新しい繋がりを自ら作れた。
反省点	・まち大活動開始当初から発足させていても良かったかも ・MTG 終了に合わせていたので真夜中の投稿が多い ・大学への広報依頼などをもっと積極的に行うべきだった ・参加者を含めた全体写真を撮るべきだった。 ・交流祭後の投稿をするのが遅れてしまった

交流ボード作成チーム

1. チーム創設の経緯

参加者の声を聴きたいと感じコメントボードを作ることになったのがきっかけである。実際にやっていくとやるべきことが多く、コメントボード専用のチームを作ることとした。

2. チームの発足時期

11月下旬

3. 「阪神まち大学」のチームでの活動を振り返って、良かったこと、課題や反省点

活動内容	概要：つながり交流祭の軸となる、交流ボードについて企画、運営を行った。交流ボードでは、つながり交流祭の全体発表及びブースセッションを体験した上で、理想の阪神地域のあり方について、一般参加者及び参画学生団体の方に意見を書いてもらい、みんなに見えるように共有した。 交流ボードの作成方法：ホワイトボードを用意して、B4の紙を9枚重ねて貼り付けた。その上に参加者の理想の阪神地域に関するコメントを書いてもらい、コメントボードが完成した。
よかった点	資料チームとの連携ができ、本来の目的である「イベントの企画」というパーパスに近づくことができた。 参加後アンケートから明らかになっているように、ブースセッションを長く感じる来客も多いなか、ブースセッション中のコンテンツができたことは大変よかった。 また、閉会式において、理想の阪神という質問を参加者に投げることで場を盛り上げるきっかけにもなったこともよかった。 活動発表会からブースセッションに至るまで、参加者にはインプットの活動しかできなかったが、交流ボードの存在が、アウトプットの活動になり、本当の交流という意味合いに近くなった。
反省点	発足がややぎりぎりになってしまった。 名前や企画内容がころころ変わり、県の方やコミサポの方にうまく報告、連絡、相談が出来ず、迷惑をかけた事がある。 交流ボードにクリスマスアート要素を入れるなどの理想論が出たが、現実的には困難であった。 当日、私たちが声をかけないとなかなかコメントを書いてくれなかった。 つながり交流祭のブースセッションを見たうえで理想の阪神について書くというテーマ上、ブースセッション終了間際に人が集まってしまった。そのことによって、次のプログラムである閉会式への接続が、うまくできなくなる。